

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 総会 2017

2017(平成 29)年 9月 29日(金)～30日(土)

東武ワールドスクウェア (栃木県日光市)
足尾歴史館 (栃木県日光市)



東武鉄道 SL「大樹」 (下今市機関区)

はじめに

今年には1987年の鉄道改革からちょうど30年、このとき財政破綻した日本国有鉄道の分割民営化が実施されてJR体制に移行しただけでなく、民営鉄道を規制していた地方鉄道法も廃止され、旧国鉄系も民鉄も鉄道事業法のもとに置かれることになりました。まだ記憶に生々しい大改革も、すでに歴史の1ページになろうとしています。

その4年後、1991（平成3）年に日本鉄道保存協会が生まれてから26年、早くも四半世紀以上の歳月を経ました。車両の動態保存をしている14団体で発足した本協会は、その後有力な鉄道系博物館、意欲にあふれる地方自治体、ボランティアのグループなども加わり、多彩な顔ぶれを揃えて会員数50団体まであと少しのところまで来ました。

1991年という年は、それまで続いていたバブルが崩壊し、デフレへと移り変わっていった時期です。その後の長い間、日本の経済は低迷に苦しんできましたが、幸い鉄道保存の活動が着実に進んでいるのは、それが時代の潮流に合致しているからだと言えましょう。先の見えにくくなった時代にあって、いま日本人は、経済の成長と繁栄に期待をつなぎながらも、他方では内面的な精神の安定と文化の豊かさを求めています。日本の近代化を牽引し、戦後復興と高度成長を支えた鉄道の遺産を守り、その価値を後世に伝えようとする私たちの活動は、日本人の心の底にある欲求と願いに添うものであり、私たちは自信をもって理解者と支援者を増やす努力を続けたいと思います。

日本鉄道保存協会にとって現在の最大の課題は、第一に組織と財政基盤の強化であり、第二に若返りであると言えます。これまでは会員相互の交流に重点を置いたネットワークという緩やかな組織でしたが、今後の発展のためには、この二つの課題をどうしても解決する必要があります。かねてからの課題である法人化については、すでに定款案の準備も出来ていますので、会員の皆様のご意見をお聞きしながら、早期の実施をめざしたいと思います。また、様々な工夫と努力を重ねて収入増をはかり、財政基盤を強化するとともに、組織を担う中心となる陣容の若返りを追求し、新たな方向への第一歩にしたいと思います。皆様からのご理解とご支援を期待しています。

2017（平成29）年9月29日

日本鉄道保存協会 代表幹事団体
公益財団法人交通協力会 会長

菅 建 彦

**日本鉄道保存協会
2017年度総会・見学会プログラム**

日 程 2017年 9月29日(金)～30日(土)

開催地

総 会 東武ワールドスクウェア コンベンションハウス (栃木県日光市)
交流会 東武ワールドスクウェア レストランワールド (同)
宿 泊 栃木県日光市 鬼怒川温泉周辺

9月29日(金)

12:00 東武ワールドスクウェア入口で受付開始 (13:15まで園内自由見学可)
13:30 開会挨拶
総 会 (会場:東武ワールドスクウェア2階 コンベンションハウス)
14:30 開催地報告 (同会場)
① 東武鉄道株式会社 専務取締役 三輪 裕章 氏
② NPO 法人 足尾歴史館・トロッコ部
広報担当 岡本 憲之 氏
足尾駅保存車両担当 北川 潤 氏
15:30 事例報告 (同会場)
① 秩父鉄道株式会社 取締役執行役員鉄道部長 高柳 功 氏
② 栗原市 くりはら田園鉄道公園学芸員 鍋嶋 貴之 氏
16:30 総会終了
17:00 交流会開始 (会場:東武ワールドスクウェア レストランワールド)
19:00 交流会終了、バスで宿泊先へ

9月30日(土)

08:30 東武鉄道鬼怒川保養所 正面玄関に全員集合
09:30 足尾歴史館着 館内見学・ガソリンカー乗車
10:30 足尾歴史館出発
10:40 足尾駅見学 (1時間程度)
12:00 日光市足尾行政センターに移動、昼食
12:50 行政センター出発
14:20 鬼怒川温泉駅着
14:35 SL「大樹」4号に乗車 (鬼怒川温泉駅→下今市駅)
15:09 下今市駅着、自由解散
オプションで転車台広場・SL展示館等見学

以 上

日本鉄道保存協会（RPSJ）2017年度総会 出欠一覧表

資格	所属	役職	氏名	総会	交流会	保養所	見学会
顧問	東京学芸大学	名誉教授	青木 栄一		欠	席	
顧問	東京女子大学	名誉教授	小池 滋		欠	席	
顧問	一般財団法人 東武博物館	理事 名誉館長	花上 嘉成	○	○	○	○
顧問			高橋 一字		欠	席	
顧問	公益財団法人 交通協力会	会長	菅 建彦	○	○	○	
顧問	OFFICE NATORI	代表	名取 紀之	○	○	○	○

正会員	遠軽町（旧丸瀬布町）	丸瀬布総合支所産業課			欠	席	
正会員	陸別町商工会（ふるさと銀河線りくべつ鉄道）		鶴岡 愛一朗	○	○	×	○
正会員	NPO法人 ひがし大雪アーチ橋友の会				欠	席	
正会員	三笠市	経済建設部商工観光課商工観光係長	杉山 充	○	○	×	○
正会員	三菱大夕張鉄道保存会				欠	席	
正会員	北海道旅客鉄道株式会社（JR北海道）				欠	席	
正会員	NPO法人 北海道鉄道文化保存会				欠	席	
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会				欠	席	
正会員	七百レールファンクラブ	副会長	野田 悟	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	会長	千葉 裕之	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	副会長	吉野 幸裕	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会		吉野 千鶴子	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会		大谷 清次	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会	会計監査	長瀬 勇一	○	○	○	○
正会員	栗原市	学芸員	鍋嶋 貴之	○	○	×	○
正会員	栗原市	学芸員	大杉 要	○	○	×	○
正会員	真岡線SL運行協議会		中山 文行	○	○	×	○
正会員	NPO法人 足尾歴史館	トロッコ部 広報担当	岡本 憲之	○	○	×	○
正会員	NPO法人 足尾歴史館	トロッコ部 足尾駅保存車両担当	北川 潤	○	○	×	○
正会員	鹿島鉄道保存会	副代表	野澤 秀幸	○	×	×	×
正会員	鹿島鉄道保存会	参 与	木瀬 若桜	○	○	○	○
正会員	鹿島鉄道保存会	参 与	大庭 亮胤	○	×	×	×
正会員	鉦田駅保存会	理 事	岡野 利通	○	○	○	○
正会員	鉦田駅保存会	理 事	川津 重夫	○	○	○	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）	アドバイザー	野口 稔夫	○	○	×	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）	施設長	大久保 勉	○	○	×	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）	技術主任	高橋 政士	○	○	×	×
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）	電気主任	小川 知宏	○	○	×	○
正会員	碓氷峠鉄道文化むら				欠	席	
正会員	デハ3499号車保存会	代 表	日暮 成一	○	○	○	○
正会員	日本工業大学				欠	席	
正会員	秩父鉄道株式会社	取締役 執行役員鉄道部長	高栴 功	○	○	○	○
正会員	秩父鉄道株式会社	鉄道部 車両課長	根津 泰生	○	○	○	○
正会員	東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）				欠	席	
正会員	公益財団法人 東日本鉄道文化財団	鉄道博物館 副館長	石田 見	○	×	×	×
正会員	一般財団法人 東武博物館	理事 名誉館長	花上 嘉成				顧問に記載
正会員	公益財団法人 日本ナショナルトラスト				欠	席	
正会員	公益財団法人 交通協力会	会長	菅 建彦				顧問に記載
正会員	横浜市電1156号保存会	代 表	齊藤 大紀	○	○	×	○
正会員	横浜市電1156号保存会	会 員	青木 涉	○	○	×	○
正会員	新潟市新津鉄道資料館				欠	席	
正会員	上松町（赤沢森林鉄道）	産業観光課商工観光係	横内 義広	○	○	×	○
正会員	虹の郷（一般財団法人 伊豆市振興公社）				欠	席	
正会員	足久保鐵道株式会社	代表取締役	玉井 宏政	○	○	×	×
正会員	大井川鐵道株式会社	運輸課長	坂下 裕之	○	○	○	○
正会員	東海旅客鉄道株式会社（JR東海）リニア・鉄道館	副館長	大橋 正智	○	×	×	×
正会員	博物館明治村（公益財団法人 明治村）				欠	席	
正会員	NPO法人 神岡・町づくりネットワーク				欠	席	
正会員	長浜鉄道スクエア（公益社団法人 長浜観光協会）	主 査	梅園 いつ子	○	○	○	○
正会員	貨物鉄道博物館				欠	席	
正会員	西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）	広報部鉄道文化推進室課長代理	岩倉 英明	○	×	×	×

資格	所属	役職	氏名	総会	交流会	保養所	見学会
正会員	公益財団法人 交通文化振興財団	事務局係長	飯田 一紅子	○	○	×	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会	副理事長	中井 喜宏	○	○	×	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会	正会員	篠崎 隆	○	○	×	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会	事務局	水町 健	○	○	×	○
正会員	片上鐵道保存会	業 務	森岡 誠治	○	○	○	○
正会員	片上鐵道保存会	業 務	毎熊 晃	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会	幹 事	山根 政彦	○	○	×	×
正会員	NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取			欠 席			
正会員	山口線SL運行対策協議会			欠 席			
正会員	西条市	四国鐵道文化館アドバイザー	入江 一成	○	○	○	○
正会員	馬路村			欠 席			
正会員	九州旅客鐵道株式会社 (JR九州)	広報部課長代理	添田 孝彦	○	○	×	○
正会員	北九州線車両保存会	代 表	手嶋 康人	○	○	○	○

賛助会員	株式会社ネコ・パブリッシング			欠 席			
賛助会員	株式会社鐵道ジャーナル社			欠 席			
賛助会員	日本鐵道写真作家協会		猪井 貴志	○	○	○	○
賛助会員	日本鐵道写真作家協会		森 誠	欠 席			
賛助会員	有限会社 レイルマンフォトオフィス	代表取締役	山崎 友也	○	○	○	×
賛助会員	北陸重機工業株式会社			欠 席			
賛助会員	株式会社JTBパブリッシング			欠 席			
賛助会員	有限会社鐵道フォーラム	代表取締役	伊藤 博康	欠 席			
賛助会員	株式会社片上鐵道		森岡 直子	欠 席			
賛助会員	株式会社日本旅行	マネジャー	瀬端 浩之	○	○	×	○
賛助会員	株式会社トレインプラン	代表取締役	太田 裕二	○	○	○	○

友の会会員			赤羽 誠	○	○	○	○
友の会会員			阿部 豊	○	○	○	○
友の会会員	イモンコーポレーション	代表取締役	井門 義博	○	○	×	×
友の会会員			岩野 弘一	○	○	○	○
友の会会員			遠藤 哲夫	○	○	×	○
友の会会員	四国電設工業株式会社	監査役	加藤 圭哉	○	○	×	○
友の会会員			河合 桃子	○	○	○	○
友の会会員	東京地下鉄株式会社		倉繁 聡	○	○	○	○
友の会会員			柴山 純一	欠 席			
友の会会員	清水薫 レイルウェイフォトオフィス	代 表	清水 薫	欠 席			
友の会会員	トラベルライター		白川 淳	○	○	×	○
友の会会員			神野 清司	○	○	○	○
友の会会員			関田 克孝	欠 席			
友の会会員			橘 秀幸	○	○	○	○
友の会会員			田中 浩史	○	○	○	○
友の会会員			長野 光芳	○	○	○	○
友の会会員			西尾 恵介	○	○	○	○
友の会会員			野田 智毅	欠 席			
友の会会員			藤井 修	○	○	○	○
友の会会員			水野 弥彦	欠 席			

オブザーバー	東武鐵道株式会社	専務取締役 経営企画本部長	三輪 裕章	○	○	×	×
オブザーバー	株式会社 ヤマネ	技術部課長	高見 浩	○	○	×	○
オブザーバー			山崎 朗	○	○	○	○
オブザーバー	三島市立楽寿園 楽寿園応援団	応援隊隊員	一杉 夏来	○	○	×	○
オブザーバー	株式会社ジェイアール四国企画	営業部長	松本 新一	○	○	×	○
オブザーバー	四国旅客鐵道株式会社	総合企画本部 地域連携室副長	早馬 直樹	○	○	○	○
オブザーバー	法政大学経営学部	准教授	二階堂 行宣	○	○	○	○
オブザーバー	日本放送協会 (NHK) 報道局映像センター映像取材部	副部长	黒田 雅仁	○	○	○	○

事務局	日本鐵道保存協会	事務局長	米山 淳一	○	○	○	○
事務局	日本鐵道保存協会	事務局	佐々木 雅子	○	○	○	○

<凡 例>

番号	団体名
〒	団体所在地 / 連絡先住所 電話番号 / Fax 番号
	団体代表者名 RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

01 遠軽町 (旧丸瀬布町)

〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長 佐々木修一
係 長 上戸 智仁 (☆)

02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)

〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長 石橋 強
理 事 山本 周二
事務局長 杉本 武勝 (☆)

03 NPO 法人 ひがし大雪アーチ橋友の会

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東 3 線 239
Tel 01564-2-3385 Fax 01564-2-3682

会 長 那須襄太郎
事務局長 角田 久和 (☆)

04 三笠市

〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880

市 長 西城 賢策
主 事 小栗 拳児 (☆)

05 三菱大夕張鉄道保存会

〒068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel 011-387-4783

会 長 奥山 道紀
事務局長 今井 一郎 (☆)

06 北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786

代表取締役社長 島田 修
運輸部運用課副課長 川瀬 貴之 (☆)

07 NPO 法人 北海道鉄道文化保存会

〒047-0041 北海道小樽市手宮 1-3-6
小樽市総合博物館内
Tel 0134-61-7777

代表理事 飯田 勝幸
専務理事 清水 道代 (☆)

08 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会

〒133-0051 江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel 03-3672-7709

代表理事 星野 正博 (☆)

09 七百レールファンクラブ

〒336-0926 さいたま市緑区東浦和 7-4-12-103
Tel 070-6528-2629

会 長 斎藤 正
副会長 野田 悟 (☆)

10 小坂鉄道保存会

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク 気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

代 表 千葉 裕之
総務局長 亀沢 修 (☆)

11 栗原市

〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel 0228-22-1125 Fax 0228-22-0313

市 長 千葉 健司
企画部企画課 藤 圭一 (☆)

12 真岡線 SL 運行協議会

〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152

会 長 (真岡市長)	石坂 真一
事務局長	高橋 則夫
総務課長	小林 裕司
担 当	中山 文行 (☆)

13 NPO 法人 足尾歴史館

〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-93-0189

館 長	長井 一雄
トロッコ部	岡本 憲之 (☆)

14 鹿島鉄道保存会

〒113-0033 文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel 03-5802-2755 Fax 03-3818-2700

代 表	加藤三千尋 (☆)
-----	-----------

15 鉾田駅保存会

〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735

理 事	川津 重夫 (☆)
-----	-----------

16 ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク) ※新加入

〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社広沢商事内
Tel 0296-21-1234 Fax 0296-24-7837

代 表	廣澤 清
担 当	野口 稔夫 (☆)

17 碓氷峠鉄道文化むら (一般財団法人 碓氷峠交流記念財団)

〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111

代表理事	上原 有一
館 長	飯沼 勲
事務局長	瀧川 広 (☆)

18 デハ 3499 号車保存会

〒331-0802 さいたま市北区本郷町 313 蓮見住宅 C-3

代 表	日暮 成一 (☆)
-----	-----------

19 日本工業大学

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570

学 長	成田 健一
館 長	松野 建一
講師・学芸員	丹治 明 (☆)

20 秩父鉄道株式会社

〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551

代表取締役社長	大谷 隆男
鉄道部車両課長	根津 泰生 (☆)

21 東日本旅客鉄道株式会社

〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352

代表取締役社長	富田 哲郎
総務部企画グループ	三山 勇一 (☆)

22 公益財団法人 東日本鉄道文化財団

〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570

理事長	清野 智
学芸部	五十嵐健一 (☆)

23 一般財団法人 東武博物館

〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814

理事長	三輪 裕章
理事・名誉館長	花上 嘉成
専務理事・館長	山田 智則
管理課長	山澤 晴行 (☆)

24 公益財団法人 日本ナショナルトラスト

〒102-0083 千代田区麴町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190

会 長	梅崎 壽
事業課	梅宮 路子 (☆)

25 公益財団法人 交通協力会

〒100-0005 千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809

会 長 菅 建彦 (☆)

26 横浜市電 1156 号保存会

〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707

代 表 齊藤 大起 (☆)

27 新潟市新津鉄道資料館

〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808

館 長 帆苺 正悟
副館長 水澤喜代志 (☆)

28 上松町 (赤沢森林鉄道)

〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038

町 長 大屋 誠
商工観光係 横内 義広 (☆)

29 伊豆修善寺 虹の郷 (一般財団法人 伊豆市振興公社)

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 4279-3
Tel 0558-72-7222 Fax 0558-72-7133

理事長 鈴木 健範
園内交通課 秋山 忠久 (☆)

30 足久保鐵道株式会社 ※新加入

〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444

代表取締役 玉井 宏政 (☆)

31 大井川鐵道株式会社

〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115

代表取締役社長 前田 忍
鐵道部長 石川 寛之 (☆)

32 東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）

〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
リニア・鉄道館

Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101

代表取締役社長 柘植 康英
館 長 天野 満宏 (☆)

33 公益財団法人 博物館明治村

〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地

Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358

館 長 中川 武
所 長 吉田善一郎
主 任 近藤 雅隆 (☆)

34 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク ※新加入

〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2

Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677

理事長 鈴木 進悟
レールマウンテン
バイク事務局 田口由加子 (☆)

35 長浜鉄道スクエア（公益社団法人 長浜観光協会）

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41

Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396

館 長 北沢 繁和
主 査 梅園いつ子 (☆)

36 NPO 法人 貨物鉄道博物館

〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内

Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142

館 長 吉岡 心平 (☆)
理 事 北川 潤

37 西日本旅客鉄道株式会社

〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24

Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053

代表取締役社長 来島 達夫
広報部 岩倉 秀昭 (☆)

38 公益財団法人 交通文化振興財団

〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114

理事長 来島 達夫
専務理事 三浦 英之
交通調査センター長 川端 英登 (☆)

39 加悦 SL 広場 (宮津海陸運輸株式会社)

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel 0772-42-3186 Fax 0772-42-5300

代表取締役社長 小野寺俊博
管理課長 柴田万喜也 (☆)

40 NPO 法人 加悦鐵道保存会

〒612-8485 京都市伏見区久我森の宮町 4-144
Tel 090-3829-4000

理事長 吉田 博一 (☆)

41 片上鐵道保存会

〒576-0034 大阪府交野市天野ヶ原町 2-39-2
Tel 0868-62-7155 (柵原鉷山資料館)

代表幹事 齊藤 公久
事務局 森岡 誠治 (☆)

42 若桜駅を元気にする会

〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場ふるさと創生課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134

会 長 藤原 源市
事務局 谷本 剛 (☆)

43 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022 鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103

理事長 渡辺 一正
事務局長 太田 縁 (☆)

44 山口線 SL 運行対策協議会

〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロジェクト推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179

会 長 阿野 徹生
主任主事 小嶋 洋一 (☆)

45 西条市（鉄道歴史パーク in SAIJO）

〒793-0030 愛媛県西条市大町 798-1
西条市観光交流センター
Tel 0897-52-1446 Fax 0897-53-6200

市 長 玉井 敏久
観光交流センター 佐竹 浩（☆）

46 馬路村

〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鉄道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208

村 長 上治 堂司
魚梁瀬支所 久保 可奈（☆）

47 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長 青柳 俊彦
広報部 課長代理 添田 孝彦（☆）

48 北九州線車両保存会

〒818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1
Tel 080-6412-1666

代 表 手嶋 康人（☆）

賛助会員

01 株式会社ネコ・パブリッシング

〒153-8545 目黒区下目黒 2-28-18 目黒山手通ビル
Tel 03-5745-7813

鉄道事業部長 山下 修司 (☆)

02 株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072 千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F
Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597

編集長 宮原 正和 (☆)

03 日本鉄道写真作家協会

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
レイルマンフォトオフィス内

会 長 猪井 貴志
事務局 村上 悠太 (☆)

04 有限会社 レイルマンフォトオフィス

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046

会 長 山崎 友也 (☆)

05 北陸重機工業株式会社

〒950-0871 新潟市山木戸 7-3-69
Tel 025-274-3311 Fax 025-271-4812

取締役会長 霜鳥 勝徳
営業課長 岩橋 正人 (☆)

06 株式会社 JTB パブリッシング

〒162-8446 新宿区払方町 25-5
Tel 03-6888-7845 Fax 03-6888-7876

代表取締役社長 里見 雅行
MD 事業部編集長 岡 陽子 (☆)

07 有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57

Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310

代表取締役 伊藤 博康 (☆)

08 株式会社片上鉄道

〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原 517

Tel 080-3541-5552 Fax 082-507-2035

代表取締役 森岡 直子 (☆)

09 株式会社日本旅行

〒105-8606 東京都中央区日本橋 1-19-1 日本橋ダイヤビルディング 12 階

Tel 03-6895-7865

代表取締役社長 堀坂 明弘
情報システム部 瀬端 浩之 (☆)

10 トレインプラン

〒662-0054 兵庫県西宮市大谷町 3-30

代 表 太田 裕二 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

赤羽 誠	阿部 豊	井門 義博	岩野 弘一	遠藤 哲夫
加藤 圭哉	河合 桃子	倉繁 聡	柴山 純一	清水 薫
白川 淳	神野 清司	関田 克孝	橘 秀幸	田中 光一
田中 浩史	長野 光芳	西尾 恵介	野田 知毅	藤井 修
水野 彌彦				

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名	遠軽町	〒 099-0203 Tel : 0158-47-2213 Fax : 0158-47-2128 URL : http://engaru.jp/ Email : m-sangyou@engaru.jp 担当者：丸瀬布総支所産業課 係長 上戸 智仁
-----	-----	---



H26.9.23 撮影

雨宮 21 号・DL 機関車併走同時運行

雨宮21号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輛の1台です。
 用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

- 平成 16 年度 北海道遺産に選定 (NPO 法人北海道遺産協議会)
- 平成 20 年度 近代化産業遺産に認定 (経済産業省)
- 平成 24 年度 準鉄道記念物に認定 (JR 北海道)
- 平成 29 年度 林業遺産に認定(一般社団法人 日本森林学会)

- 1.運行日 平成 29 年 4 月 29 日から 10 月 22 日までのGW・夏休み・土・日・祝日
- 2.運行時間 10時から16時30分 (30分毎)
- 3.運行区間 森林公園いこいの森 2 km
- 4.乗車料金 大人500円 (高校生以上) 小人250円 (4才以上)

【近況報告】

◆森林公園いこいの森軌道開通式◆

昨年の台風等により軌道 410m が流され全線運行が出来ない状況の中、「雨宮号+井笠客車+鶴居 DL」によるプッシュ・プル特別運行でシーズンを終了しました。
 その後は、役場関係者・民間工事関係者の協力により、今年度の4月29日の開園式に間に合う事ができ、全線開通の通常運行が再開されました。



4/29 開通式



4/29 開通式 テープカット

昨年の災害に対しまして、フェイスブックページ等による皆様からの心温まる応援メッセージや、ご寄付を頂き心より厚くお礼申し上げます。
 施設復旧につきましては、キャンプ場の一部・遊具施設等の完成は、来年度の夏休み前までの完成を目指し作業を進めているところであります。

団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email ginga@bz01.plala.or.jp

【営業期間】

4月下旬～10月下旬

【気動車乗車体験】

CR75 (銀河鉄道 999 ラッピング列車) を使用し運行しています。

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生未満無料(構内)、中学生以上 500 円・小学生 300 円・小学生未満無料(構外)

【トロッコ体験】

足こぎ式を利用し 400m の周回コースを 1 周

料金：中学生以上 300 円・小学生 200 円・小学生未満無料

【気動車運転体験】

CR70・75 型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

(S コース)

女性の方でも簡単に体験できます。

料 金：2000 円

対 象 者：小学校高学年以上身長 130 cm 以上

体験運転：約 30 分間 (運転・説明)

(銀河コース)

1 週間前完全予約制

※L コース体験者のみ体験可能

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：30000 円

体験時間：約 80 分間 (運転)



駅構外乗車体験列車「銀河号」第8回鉄道まつり
平成28年7月24日(日)

(L コース)

1 週間前完全予約制

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：20000 円

体験時間：約 80 分間 (講習・出区点検・運転)

(銀河コースパックセット)

1 週間前完全予約制

初心者でも銀河コースを運転できるのでおススメ!!

予約方法：インターネットまたは電話予約

料 金：50000 円

体験時間：計約 160 分間 (講習・出区点検・運転)

L コース 80 分間・銀河コース 80 分間

L コースと銀河コースの体験に、2 食付の宿泊が付き 50000 円。

<平成29年度事業経過>

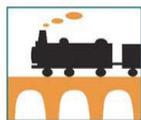
平成20年4月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は今年で10年目を迎えました。この10年間で平成21年より陸別町観光協会主催「ふるさと銀河線りくべつ鉄道まつり」が毎年開催されることとなり、今では大きなイベントとなっております。平成22年「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別会場として開催され、平成24年より運転体験「銀河コース」として構外へ1.6km延伸し、翌年にトロッコ周回コース400mが新設されました。同年9月には「銀河鉄道999」の原作者「松本零士氏」が来町されて銀河の森天文台とメーテル号を結び付けた共同イベントを開催。平成27年からは旧陸別駅から残っている鉄道の最大延長路線である旧分線駅5.7kmまでの運行を実現させました。「りくべつ鉄道開業10周年」を1つの区切りとし、9月9日(土)～10日(日)には「りくべつ鉄道開業10周年記念イベント」を開催し全国の鉄道ファンが集いました。



<平成29年度イベントスケジュール>

- 4月22日(土) 平成29年度営業開始
- ★5月3日(水) GW 特別運行
- 7月23日(日) 第9回りくべつ鉄道まつり
- ★8月10日(木)～15日(火) お盆特別営業
- ★9月10日(日) りくべつ鉄道開業10周年イベント
- 10月15日(日) 鉄道の日記念運行
- 10月29日(日) 平成29年度営業最終日
- ★陸別～分線間(5.7km) 乗車体験列車運行
- ※5月5日、8月13日、9月10日に実施

めがね橋だより



平成29年4月



発行 NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会 会長 那須襄太郎
事務局 〒080-1408 河東郡上士幌町上士幌東3線239番地
TEL 01564-2-3385 FAX 2-3682
Eメール arch@oregano.ocn.ne.jp
ホームページ http://arch-bridge.sakura.ne.jp

【 士幌線跡の草刈り 】を実施

7月に士幌線跡・十四の沢から第五音更川橋梁までの約5.8kmの草刈りを行いました。廃線跡をこれだけ綺麗に保全している路線は少ないと思います。ただ、ヒグマの気配が結構します。



草刈りの作業中

【 鉄道資料館敷地の草刈り 】を実施

鉄道資料館の建物周囲とひがし大雪高原鉄道沿いを7月から9月にかけて延べ5回、草刈りを行いました。今後も環境整備に努めていきます。



草刈りの作業中

【 第三音更川橋梁・緊急補修工事 】を実施

平成28年度「ほっかいどう遺産waoN」の支援を受けて、第三音更川橋梁の緊急補修工事を行いました。平成30年度に本格的な補修を計画していますので、今回の補修工法が的確であるのか、冬を越させて検証します。



補修工事中

【 観光トロッコ 】を運行

6月から10月まで全長662mの線路を使って、トロッコを運行しました。今年度は8月に3度の台風の影響を受け、線路に土砂が3回、流れ込んだり、路床が流されたりして、その後始末にエネルギーを費やしました。また国道273号線が橋梁の崩落により長期間通行不能になった為、利用者は激減しました。今年は天候が安定するように、祈るばかりです。



走行中



線路へ土砂の流入

【 第三音更川橋りょう保全および活用事業 】について

平成21年度から行っています「第三音更川橋りょう補修のための募金」総額は平成29年4月1日現在3055件で79,899,942円になっています。（上士幌町で管理しています）皆様のご協力が心から感謝申し上げます。平成29年度まで募金活動を行い、平成30年度の補修を目指しています。



【 2つの橋梁と1つの駅跡が国の登録有形文化財に 】

この度、糠平川橋梁と三の沢橋梁（1955年建設）と旧幌加駅（1939年開業）が国の登録有形文化財になりました。これで旧士幌線の登録有形文化財は7つの橋梁と1つのトンネル、駅跡で合計9つになりました。一つの廃線跡でこれだけ集中しているのは全国的に見て珍しいです。



糠平川橋梁



三の沢橋梁



旧幌加駅

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所商工観光課 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町2丁目 三笠鉄道記念館 Tel : 01267-3-1123 Fax : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com URL : http://www.s-304.com

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和62年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・SL部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■ SL運行（乗車1回300円）

運行日……4月16日から

10月15日までの土・日・祝日

※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、

休館日を除き毎日運行。

土曜……12:00始発～16:00発最終

日曜・祝日…10:00始発～16:00発最終

※30分毎の発車です。

ただし、12:30発の便はありません。



■ SL機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分不足のわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も700人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■ 展示車両（三笠鉄道村幌内ゾーン）

動態展示…S-304（C形タンク機）、コトラ149456、コトラ153095

機関庫内展示…C122（国鉄C12形機関車）、59609（国鉄9600形機関車）、ED76505、DD13353

屋外展示…DD51610、オハフ33451、スハフ4412、スユニ50505、キハ2252、キハ2723、キロ26104、キハ5616、DD1517、DD141、チキ6147、ソ81、スエ3041、スエ321、DD1615、キ274、キ756、セキ6657、トラ72568、ワム66172、DE101702、排雪モーターカー510、ロータリー排雪車DL7L、坑外用8t電気機関車2両

食堂車…スハフ4520、キシ8031、オハフ46504

■ イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。

イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぼっぼレンジャー」が登場します。

今年のゴールデンウィークイベントからは、客車ではなく、運行しているSLの運転席に乗車できる「SL運転席乗車体験」を行っているほか、「ぼっぼレンジャービンゴ大会」や「どん菓子」実演など、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。



団 体 名	三菱大夕張鉄道保存会	連絡先 068-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6 三菱大夕張鉄道保存会事務局 011-387-4783
-------	------------	--

○三菱大夕張鉄道について

三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ」列車は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。



○三菱大夕張鉄道保存会の活動

鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(実際に正式譲渡されたのは平成 19 年)。公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などで三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復旧工事が実施された。



その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシューパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」整備計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)年には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。平成 27(2015)年には三菱鉱業自社発注のナハフ 1 が往年の塗装に復元された。一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道の S L や関連資料を保存する、石炭の歴史村・S L 館も閉鎖されたままとなっている。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用して周辺整備も進めているが、数年後の石勝線支線の廃止も視野に、S L 館も含め石炭と共に歩んだ鉄道の遺産を地域再生に活用出来るよう活動を展開しますので、皆様のご指導・ご支援願います。

主な活動内容

- 保存車両公開 4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)
 - 汽車フェスタ 9 月上旬
 - 夕張の廃線跡バスツアー 7 月下旬 S L 館雪下ろしバスツアー 1 月下旬
 - S L 館公開や廃線跡・産業遺産探訪などを組み合わせたシンポジウムなどの企画、実施
 - ホームページ <http://www.ooyubari-rps.net/>
- 夕張市での連絡先 夕張市清水沢 2 丁目読売新聞夕張中央メディアセンター(高橋勇治)

団体名

一般社団法人
南部縦貫レールバス愛好会

〒 039-2512
青森県上北郡七戸町笹田 54-2
旧七戸駅機関庫内
Tel : 080-3201-4158 Fax :
URL : www.ogaemon.com/
Email : zwr07104@nifty.ne.jp
担当者 : 小川

平成9年に運転休止、平成14年に廃線になりました南部縦貫鉄道で使用されていた車輛の保存活動を行っています。

富士重工製のレールバスキハ101・102の2両とキハ104ディーゼルカー1両を旧七戸駅構内で動態保存を行っております。その他D451機関車・DC251機関車・DB11機関車の3両の保存も行っております。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車出来るイベントを、秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップして撮影会を行っております。今年の夕暮れ撮影会は11月4日(土)を予定しております。皆様のお越しをお待ちしております。



団体名 七百レールファンクラブ

<https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815>

七百検修庫: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2

会長: 斎藤正

施設名 七百鉄道記念館

七百鉄道記念館 事務取扱方

住所: 〒336-0926

埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101

氏名: 野田 悟

連絡先: 070-6528-2629(開館時以外は通じません)

メール: shichihyaku@yahoo.ne.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足

平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入

平成27年5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施

平成27年11月8日 第二回 一般公開を実施

平成28年5月29日 第三回 一般公開を実施

平成28年11月6日 第四回 一般公開を実施

平成29年5月28日 第五回 一般公開を実施

平成29年10月22日 第六回 一般公開を実施予定

第4回・第5回の一般公開時の模様。第5回には転てつ器の操作体験やキップの入鉄体験も行いました。



開館以来、会員以外地元の方々やOBを含めた十和田観光電鉄の方々のご協力を賜り、所蔵・展示品の充実を図ることが出来ました。今後も引き続き取り組んでまいります。

※ 個人連絡先(野田)

自宅: 048-876-0102

自宅PC: IZD01662@nifty.com

個人携帯: 090-2520-2629

個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉾山字古川20-9

Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

会員の活動も多彩になって！！

小坂鉄道保存会の活動もレールパークの観光活用とともに多彩になってきました。でも、まだやりたいことはいっぱい。小坂鉄道のシンボリック存在だった「キハ2101」を復活したい！… 私たちの大きな夢です。



▲小坂鉄道保存会詰所にて「気分は鉄道員」

▼小さな会員から大きな会員へ「はいタブレット」



▲ヘッドマーク取り付け作業「かっこいいだろ！」

▼雪かき作業は、とっても大事



▲小さなところもピカピカに



▲「キハを復活したい！」それが私たちの夢です

くりでんを見て、ふれて、体感できるレールパーク

宮城県の北部に位置する栗原市で大正時代から運行していたのが「くりはら田園鉄道」です。旅客・貨物輸送を行った単線ローカル線で、「くりでん」の愛称で親しまれていましたが、2007年に惜しまれながら廃線となりました。

現在は、その歴史を後世に伝えていこうという趣旨から、2010年から「くりでん (KD95) 乗車会」を、2014年4月からは、レール上を自転車感覚で走行できる「レールバイク乗車会」を開催。

さらに、くりでんの歴史資料を展示した「くりでんミュージアム」が完成し、2017年4月1日に「くりはら田園鉄道公園」としてグランドオープンしました。

1 くりでんミュージアム

見て、ふれて、体験できる。

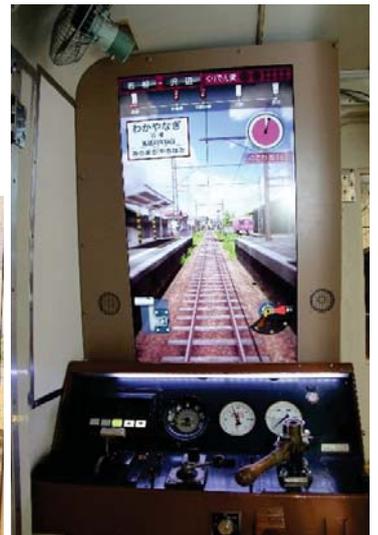
旧くりはら田園鉄道の貴重な資料や工具、車両等を保存、公開し「くりでん」の魅力を全国に発信するために整備しました。

館内には、くりでんの歴史展示や沿線を再現したジオラマ、営業当時の車両の運転席で行う運転シミュレーター、くりでんの歴史をドラマ仕立てで伝えるミニシアターなど見所満載の施設です。

- 開館時間：10時～17時
(最終入館16時)
- 休館日：毎週火曜日、年末年始
- 入館料：一般(高校生以上) 500円
小中学生 300円
小学生未満は無料
- 運転シミュレーター料金：1回500円



沿線を再現したジオラマ



運転シミュレーター

2 レールバイク乗車会

レール上を直接走る！

気動車とはひと味違った体験が可能。

レールバイクは、通常の自転車と同様にペダルを漕いで、レールの上を走行することができる乗り物です。レールの継ぎ目の「ガタンゴトン」という音を直に体感することができます。

- イベント期間：4月～10月の日曜日(※不定休あり)
- 運行区間：片道900m往復
- 乗車料金：1台500円(最大4人乗り)



3 くりでん乗車会

運行当時そのままに、くりでんの記憶が蘇る。

昭和を感じる佇まいの駅舎内で当時の硬券切符を購入し、改札を抜け、片道約900メートルの距離をKD95(ディーゼル気動車)で、当時の雰囲気さながらに運行します。

- イベント期間：6月～11月の第2日曜日
- 運行区間：片道900m往復
- 乗車料金：小学生以上1人300円



団体名	真岡線SL運行協議会	〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷4412番地 TEL 0285(82)9151 FAX 0285(82)9152
-----	------------	---



▲SLもおか「C1266」

「SLもおか」2017冬・運行日程

【運行日】	10月 1日・7日・8日・9日・14日・15日・21日 22日・28日・29日
	11月 3日・4日・5日・11日・12日・18日・19日 23日・25日・26日
	12月 2日・3日・9日・10日・16日・17日・23日 24日
【運行区間】	真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
【運行時間】	下り 下館駅10:35発～茂木駅12:06着 上り 茂木駅14:26発～下館駅15:56着
【運行車両】	SL C12形66号、C11形325号 PC オハ2両、オハフ1両 DL DE10 1535 1両

〔近況報告〕

◆SLもおか号乗車90万人達成！

・8月26日に90万人目のお客様を迎え運行することができました。
記念すべき90万人目に乗車したお客様は千葉県から来た小学生の女の子で、真岡駅下り線ホームにて記念式典が行われ、真岡線SL運行協議会長である石坂真岡市長よりお客様やSLファンの方々に感謝の言葉が述べられました。また、SL車内ではお客様に沿線の特産品である梨を配布しました。



《SL乗車90万人達成記念式典》

◆第8回真岡鐵道SLフェスタ開催！

・「第8回真岡鐵道SLフェスタ」を11月26日（日）に開催します！
真岡鐵道のSLC11、C12、9600型、D51などが勢揃いし、例年盛り上がりを見せるSLのお祭りです。楽しいイベント盛りだくさんで、沿線の方や真岡鐵道ファンの皆様、そしてSLファンの方のお越しをお待ちしております。



《昨年度のSLフェスタの様子》

◆7月、8月にて夏休みSLイベントを実施しました！

・今年も子どもたちの夏休み期間にあわせて、夏休みSLイベント「SL教室」、「SLガイド体験」、「SL夜行列車」などを開催しました。例年以上にたくさんの参加者にご参加頂き、SLもおかの旅を楽しんで頂きました。



▲体験参加者の記念撮影
（SLガイド体験）



▲運転室にてSLの仕組みを学ぶ参加者（SL教室）



▲ボランティアスタッフから説明を受ける参加者（SL教室）

団体名	NPO 法人 足尾歴史館・トロッコ部 (旧 けいてつ協会)	〒321-1523 Tel : 0288-93-0189 Fax : 0288-93-0189 URL : http://ashiorekishikan.com Email : なし 担当者 : 岡本憲之、北川 潤
-----	--	--



▲当時のガソリンカーを忠実に復元した車両を毎月第一土・日曜日にボランティアによって運行しています。



▲今年は、足尾駅に保存しています濃硫酸専用タンク車タキ 29312 の外装塗装をいたしました。



▲足尾歴史館野外展示場に、多くの方々からの募金によってナローゲージ車両の展示・保管庫ができました。



▲毎年、数回開催されています、わたらせ渓谷鐵道足尾駅構内で保存されている鉄道車両の一般公開。一部は動態保存として展示走行します。

真実の足尾銅山の光と影、その歴史的な展示を中心に、地域の郷土資料館的な存在としても活動を続けております。なお、NPO 法人足尾歴史館の運営は、入館者の入場料と、民間支援者の募金のみで運営しています。

足尾地域の歴史保存のほか、産業遺産として広く鉄道関係の保存もおこなっており、部会として「足尾歴史館トロッコ部」という活動もあります。おもな活動内容は、館内にあります「足尾ガソリン軌道・歴史館線」の運行と、野外展示場にある全国各地から集められたナローゲージ保存車両の管理。また、わたらせ渓谷鐵道の足尾駅構内にありますキハ 30 他の鉄道車両たちの保存維持といった活動内容となっております。

【足尾ガソリン軌道歴史館線 & 野外展示場】の近況

1953(昭和 28)年頃まで、路面電車のような併用軌道が足尾の街中にあり、その線路上走っていた通称:ガソリンカー。その車両を忠実に復元したガソリン機関車と客車を、毎月第一の土・日曜日にボランティアによって運行

しています。現車は失われていたので、新規復元ですが、エンジンは 80 年以上も前の、アメリカ・フォード社製 AA エンジンというものを探し出して搭載しております。

また、ナローゲージ車両の末永い保存のため、多くの支援者からの募金によって、展示・保管庫が完成しました。

【足尾駅での保存車両の公開】

わたらせ渓谷鐵道の足尾駅構内には、地元縁のある気動車(キハ 30 など)や貨車(タンク車ほか)に入換用の機関車など多数保存されています。敷地の所有者であります わたらせ渓谷鐵道株式会社と 古河機械金属株式会社のご理解と協力により、保存車両を NPO 法人足尾歴史館・トロッコ部が所有・管理しております。この車両たちの一般公開を年数回おこなっております。今年は 5 月と 9 月に各 1 日で合計 2 回おこないました。来年は 3 回ほどの公開を予定しております。なお、一部の貨車や入換用機関車は“動態保存車”として、公開時に展示走行を行っています。

団体名

鹿島鉄道保存会

<鹿島鉄道記念館>

〒113-0033
東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階 (株)バレア内
TEL 03-5802-2755 FAX 03-3818-2700
URL <https://www.facebook.com/kashitetsu>
E-mail info@kashitetsu.com 代表者:加藤

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～銚田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。



KR-501 10年経過したが状態は良好



メンバーによるキハ431の清掃作業



銚田駅保存会と廃線10周年写真展を開催

【保存車両】

- キハ714 (昭和28年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)
- KR-501 (平成元年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)
- キハ431 (昭和32年東急車輛 元加越能鉄道キハ125)

【保存建物】

- 玉里駅上りホーム待合室
- ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵

【活動報告】

平成21年3月の記念館完成後、鉄道ファン向けの一般公開(事前予約制)、見学団体受け入れや自治体とのイベント共催による特別公開を実施しています。昨年7月に5年振りの一般公開を実施したほか、本年6月には鉄道趣味団体向けの特別公開を実施しました。また、本年3月に銚田駅保存会様との共催で鹿島鉄道廃線10周年写真展を開催しました。

【今後について】

鹿島鉄道廃線から10年が経過し、当初メンバーの一部が離脱しておりますが、今後も保存活動を維持継続するため後継者を育成するとともに、鹿島鉄道や存続運動が忘れ去られてしまわぬよう、一般公開を定期的に開催したいと考えています。

団体名

銚田駅保存会

〒311-1528

茨城県銚田市当間220ほっとパーク銚田

TEL029-239-6735

(090-4387-8455)

e-mail: hokota-station@rail.nifty.com

URL: http://hokotaek.jp/



2007年3月31日に廃止になった鹿島鉄道の、2両の気動車、キハ601とKR-505(銚田市所有)の、保存活動を、2両が保存されている、茨城県銚田市の市営温泉施設『ほっとパーク銚田』で行っています。

2012～16年度は、車両の補修・塗装作業と、毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しました。

2017年度も、車両の補修・塗装作業と、原則毎月第4日曜日の定期車内公開を実施しています。

【保存車両】

『キハ601』

1936年(昭和11年)川崎車輛にて鉄道省ガソリン動車キハ42032として竣工。

1965年(昭和40年)鹿島参宮鉄道銚田線キハ42500型キハ42503として入線。

1972年(昭和47年)車体を更新し切妻化・貫通化・総括制御化してキハ601となる。

1987年(昭和62年)ワンマン化・非貫通化

2007年(平成19年)3月31日 最終回送列車でKR-505とともに銚田駅回着、廃止を迎える

『KR-505』

1992年(平成4年)新潟鉄工所にて鹿島鉄道KR-500型の4両目として竣工。

2003年(平成15年)塗色変更

2007年(平成19年)3月31日 最終回送列車でキハ601とともに銚田駅回着、廃止を迎える

当会が保存活動を行っている、鹿島鉄道の気動車キハ601とKR-505は2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。銚田駅保存会は、当初賃借した銚田駅跡地において2両の気動車の保存活動を実施していました。

その後、紆余曲折があり、銚田市議会の議決により、銚田市の温泉施設『ほっとパーク銚田』において2両を保存することになり、当会は気動車2両を銚田市に寄付し、銚田駅の保存車両は2009年12月24日に『ほっとパーク銚田』へ移送されました。その後当会は引き続き2両の気動車の保存活動を継続しています。



東日本大震災被害の復旧作業



銚田花火大会特別公開

月例の定期公開では、保存活動の周知と、鹿島鉄道を知らない年少世代への記憶の継承を目的に、下記の様な企画を行っています。

- (1) KR-505車内でのプラレール遊び
- (2) キハ601車内での鉄道模型展示・運転(N・HOゲージ 銚田駅・常陸小川駅のジオラマ等)
- (3) 5インチ乗用鉄道の体験乗車(16m×10mオーバル)
- (4) 銚田駅保存会製作のグッズの販売
- (5) 鹿島鉄道関連書籍の展示
- (6) 保存活動内容の展示

また、銚田市主催の『銚田うまかっぺフェスタ』や、『ほこたマラソン』『銚田花火大会』『石岡市商工祭』などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。

本年度は鹿島鉄道廃止から10年目にあたるため、なんらかの行事をということで、鹿島鉄道保存会殿と共催させていただき『鹿島鉄道廃線10周年写真展』を、3月18日～4月2日の期間、石岡市及び銚田市で開催いたしました。

車両が保存されている銚田市当間では、東日本大震災と、その約30分後に至近の鹿島灘で発生した余震により、二度の震度6強の揺れに襲われ、地盤の液状化が発生し展示線のレールは波打ち、展示車両は傾斜し、床下機器が接地しました。キハ601の冷却機の一部は車体とせり上がったレールの間に挟まれ破損し、冷却油が漏洩しました。また、冷却油配管が変速機用と機関用の双方とも破損・変形しました。現在、破損部位の養生修繕方法と予算について検討中です。KR-505は、機関不調のため点検を行ない、燃料配管の不具合と一部部品の経年劣化が判明しました。機関の再起動と、展示線での走行展示の再開を目指し、復旧作業中です。

団体名

ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)

〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社 広沢商事 内
Tel : 0296-21-1234
Fax: 0296-24-7837
Email : honten@hirosawa-shoji.co.jp
担当者: 大久保、野口



日本百名山で有名な「筑波山」を望む自然豊かな場所に、「自然・健康・文化」をテーマにした 100 万㎡に及ぶ「ザ・ヒロサワ・シティ」は創られています。

「ザ・ヒロサワ・シティ」の中には、18 ホールの本格的ゴルフ場やパークゴルフ場、オフロードコース等の「スポーツ施設」、美術館、学校等の「文化施設」、農園、薬草園、温室等の「農業施設」が配置されています。また、赤レンガ色と白と黒を基調とした北欧風の建物が異国情緒を醸し出しています。

「ザ・ヒロサワ・シティ」では、2015 年から鉄道文化の保存について取組んでおり、現在（2017 年 8 月末現在）以下の 9 両を所有し、常時一般公開できるよう整備作業に取り組んでいます。（写真は、ザ・ヒロサワ・シティからみた筑波山）



保存車両一覧

J R 東日本からの譲受車両

- EF81-138
北斗星を牽引した実績のある電気機関車
- オハネ24-551
北斗星のラストランを飾ったA・B寝台車
- スシ24-505
北斗星で利用されていた食堂車
- オハ25-503
北斗星のラストランを飾ったロビーカー
- オハネフ25-12
北斗星で使用されていたB寝台車両

鹿島臨海鉄道（茨城県）からの譲受車両

- マリンライナーはまなす号
7001、7002

関東鉄道からの譲受車両

- キハ101
旧JR九州 キハ30-55
- キハ102
旧JR九州 キハ30-96

ザ・ヒロサワ・シティの保存車両たち



2017梅まつり

ザ・ヒロサワ・シティ「レールパーク」でしか体験できない! ?

左の写真は、今年3月に「梅まつり」が開催された際に「キハ101」を公開した時の1コマです。

写真の奥に、初代「電車でGO」が設置されているのがお分かりでしょうか。鉄道車両内部に「ゲーム機」が設置されているはこの車両のみかもしれません。

日本鉄道保存協会の関係者の皆様については、担当者宛てにメール等で事前にご連絡を頂ければ、車両内部の見学ができるように手配させていただきます。

ただし、スタッフの都合から希望の日時に対応できないことがありますのでご了承下さい。

団体名	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : http://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者 : 瀧川 広
-----	-------------------------------	---

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経路に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道の広場です。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早20年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月の毎日、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も2,592人が受講されています。平成28年度は60名の受講者（男性59名・女性1名）があり、のべ3,260回の体験を楽しまれました。また、通算500回以上運転された方が4名おります。29年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

今後は屋外に展示されている車両や動態保存しているEF63形電気機関車の保存方法や修繕方法など、貴重な車両をどのように後世に残していくかが課題となっています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



屋外に展示されている車両

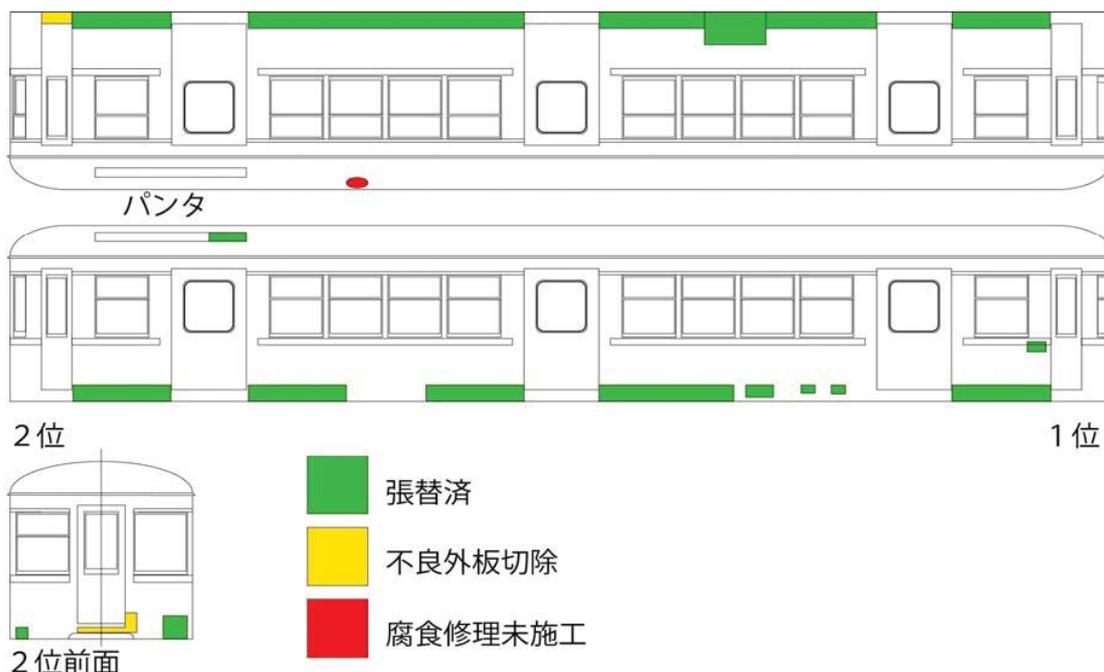


鉄道展示館と189系あさま号

団体名	デハ 3499 号車保存会	〒331-0802 Tel : 080-3013-5871 URL : http://www.mc-tc.net/3499 Email : moha565_deha3499@mc-tc.net 担当者 : 日暮
-----	---------------	---

私どもは、1936年製元東急電鉄デハ3450型3499号車を2010年に取得、群馬県下で保存修復作業を行なっています。

■2016年秋-2017年春までの進捗



・外板腐食修理作業は大詰めに差し掛かりつつあります。残るは2位側前面と側面乗務員扉周りを残すのみですが、屋根に穴あき箇所があり、内部に可燃物が挿入されているなど溶接修理ができないことから、防錆処理後コーキングとブラインドリベット併用で薄鋼板を貼り付ける予定としています。

・パテ付け作業についても随時実施しています。新規鋼板は溶接歪みで平滑を欠いているため、当該箇所のほぼ全域にパテを塗り付けて研ぎ出す必要があり、手間もパテ消費量も少なからぬ状況にあります。

・7月30日、小田急デハ1800形(国鉄モハ63形の生き残り)を近隣で保存修復している「デハ1801保存会」様の見学会に協力いたしました。同会とは友好団体として相互協力関係にあります。■車両修繕はきちんと手間をかければ結果に結びつきますが、3K的かつ単調な作業の連続になりがちであることからなかなか人が集まりにくく、とってモチベーション向上のため作業未了のまま塗装してしまえば時間や資材(購入費を含む)の手戻りや無駄等、ジレンマになります。



団体名

日本工業大学
工業技術博物館

〒 345-8501
Tel : 0480-34-4111 Fax : 0480-33-7570
URL : <http://www.nit.ac.jp/>
Email : museum@nit.ac.jp
担当者 : 丹治 明



製造されて 120 年、疾走する 2109 号蒸気機関車の勇姿

1993 年 9 月に大井川鉄道より本学に寄贈され、年に 2 度の洗缶作業を行い、2007 年度にボイラー煙管 172 本とステー管 16 本を交換して、動態保存を実施している。2012 年度の右側シリンダーの補修作業後の有火運転も無事に再開している。

2109 号蒸気機関車を、原則として 8 月と 12 月を除く毎月第 3 土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。上記の写真にキャンパス内で運転中の様子を示す。

このほかにも学園祭等のイベント時にも有火運転を行っており、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。

また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

平成 29 年度の有火運転実績

運転日	運転時刻	備考
5 月 20 日(土)	13 : 00~15 : 00	定期運転
6 月 17 日(土)	13 : 00~15 : 00	定期運転
7 月 15 日(土)	13 : 00~15 : 00	オープンキャンパス
8 月 5 日(土)	13 : 00~15 : 00	オープンキャンパス

団体名	秩父鉄道株式会社	〒 360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目1番地 Tel : 048(523)3337 Fax : 048(526)0551 URL : http://www.chichibu-railway.co.jp/ Email : syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者 : 根津泰生
-----	----------	---



☆ 秩父鉄道 SL パレオエクスプレス ☆

秩父鉄道 SL パレオエクスプレスは今年運行開始 30 周年を迎えることができました。ここまで続けてこられたことは、多くのお客様をはじめ、関係者の方々のご支援、ご協力によるものと感謝申し上げます。

C58363 (シゴハチサンロクサン) はかつて東北地方などの旧国鉄 (現在の JR) で活躍した SL です。昭和 47 年に現役引退後は、吹上町立吹上小学校の校庭で小学生と一緒にのんびりと余生を送っていましたが、さいたま博覧会 (昭和 63 年 3 月 19 日から 5 月 29 日まで熊谷市で開催) にあわせて「SL 運行を！」の声があがり、その大役に C58363 が抜擢されたのです。

昭和 62 年に車籍を復活。昭和 63 年に秩父路の SL パレオエクスプレスとして誕生しました。

『SL 運行 30 周年記念号』 運転

林家たい平師匠が 1 日駅長として、くだり熊谷—長瀨間に乗車いたします。

◎特別ヘッドマーク & サボ (客車用案内板) を掲出

◎ご乗車の方へ特別乗車記念証プレゼント

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番 Tel : 048-651-0088 Fax : 048-651-0570 URL : http://www.railway-museum.jp/
-----	--------------------------------	---

【お知らせ】

鉄道博物館所蔵のナデ 6110 形式 6141 号電車が国の重要文化財指定へ



- 当館で収蔵するナデ 6110 形式 6141 号電車が、文化庁の文化審議会答申（2017（平成 27）年 3 月 10 日）を受け、国の重要文化財（美術工芸品）に指定される運びとなりました。（正式な重要文化財の指定は、官報に掲載後となります。）
- 当館で収蔵する国の重要文化財は、1 号機関車（150 形式）【1997（平成 9）年指定】、鉄道古文書（明治時代の鉄道創業期の鉄道建設・運営に関わる公文書群）、1 号御料車（初代）【いずれも 2003（平成 15）年指定】に次いで、4 件目になります。
- また、本指定は、鉄道用電気車両（電車）としては、「日本初の地下鉄車両 1001 号電車」とともに、初の重要文化財指定となります。

〔ナデ 6141 号電車の概要〕

- 製造年 1914（大正 3）年
- 製造所 鉄道院新橋工場
- 全長 約 16m
- 定員 92 名
- 特徴

- 鉄道院最初のボギー電車（車体の前後に 2 軸の台車を装着した車両）として 1909（明治 42）年に製造されたホデ 6100 形式の改良タイプで、ボギー電車では現存する最古の車両です。
- 都市近郊における鉄道輸送の需要増大に対応するため、鉄道院で初の 3 扉車であるとともに、統括制御装置を本格的に導入し、重連運転を可能とした点が最大の特徴です。
- 本電車は、1925（大正 14）年に私鉄（目黒蒲田電鉄・現東京急行電鉄）に払い下げられたのち、1972（昭和 47）年に国鉄へ返還され、大井工場で復原工事が実施されました。同年、鉄道記念物に指定されました。その後、JR 東日本東京総合車両センターで展示のための復原工事が実施され、2007（平成 19）年の開館時から展示しております。

団体名	一般財団法人 東武博物館	〒131-0032 東京都墨田区東向島4-28-16 ☎03-3614-8811 / Fax03-3614-8814 http://www.tobu.co.jp/museum
-----	--------------	--

◆概要

東武鉄道の創立90周年を記念して、1989(平成元)年5月20日にオープンしました。身近な交通機関である鉄道やバスに親しみ、理解していただけるよう、館内を8つのコーナーに分けて構成し、東武鉄道の歴史や文化・役割を紹介しています。郷愁を誘うダイナミックな蒸気機関車をはじめ、実物車両や記念物などの貴重な資料を展示している一方で、交通のしくみを実際に見て、触れて、体感できるようシミュレータや実物機器を設置しています。また、博物館の真上を走行する車両を至近距離から観察できる、立地を活かしたコーナーも設けたリアルタイム感覚で楽しめる体験型のミュージアムです。

◆保存車両

【静態保存】

東武鉄道最初の蒸気機関車5.6号、電気機関車ED101号、電車デハ5号、戦後最初の新造特急電車5700系のさまざまなジャンルの車両12両を展示しています。



5号蒸気機関車



ED101号電気機関車



デハ1形5号



特急車5700系5701号

【動態保存】

・東武博物館では、静態保存の他動態保存車両として、昭和38年製8000系8111編成(6両)。C11 207号蒸気機関車・14系客車4両及び12系客車・ヨ8000形車掌車各2両を所有し、お客様にご利用いただいています。



8000系8111編成



C11 207号蒸気機関車

※特に鬼怒川線では平成29年8月10日から、土・休日を主に蒸気列車を運行しています。また、鬼怒川線には平成29年7月21日6ヶ所が国の登録有形文化財に登録されました。

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト  <small>Japan National Trust</small>	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-6380-8511 FAX 03-3237-1190
-----	--	---

トラストトレインは、日本で最初に市民の募金により取得し、保存・活用している歴史的車両です。1987年7月25日から大井川鐵道株式会社の協力を得て運転を開始し、多くの方々からの寄付金やボランティア活動に支えられ20年以上走り続けてきました。(公財)日本ナショナルトラストでは、今後もこれらの鉄道にかかわる文化遺産を末永く後世へ継承していくため、活動を続けてまいります。



○2017年「トラストトレイン」運転日

【運転日】4/16、6/10、7/1、8/19、9/30の計5回 ※8/19は「親子ボランティア」

【区間】大井川鐵道 新金谷 — 千頭間 (37.2km)

【保有車両の編成】

スハフ43形2・3号客車、オハニ36形7号荷物合造客車、C12形タンク式蒸気機関車

※C12は現在休車中

【近況報告】

・「親子ボランティア」の開催

毎年恒例のトラストトレイン親子ボランティアを、8月19日(土)に実施しました。ベテランボランティアさんには運営サポートにまわっていただき、受付や誘導、安全管理などにご協力いただきました。「また来年も参加したい」、「来年は下の子も連れてきたい」という参加者の方々の言葉が活動の励みになりました。

～当日のプログラム～

SL磨き体験、SL乗車、クイズ、車内アナウンス体験、客車の清掃、汽笛鳴らし体験等



◆ボランティア募集◆

トラストトレインでは、8月の親子ボランティアも含め、年に5回ボランティアによる運行を行っています。運行日にはパンフレット配りや客車内の清掃にご協力いただきます。ご興味がありましたら、(公財)日本ナショナルトラストまでお問い合わせください。

※来年の運行日は決まり次第、HP等でお知らせいたします。

団体名 公益財団法人 交通協力会

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号
電話 03-6269-9808 FAX 03-6269-9809
会長 菅 達彦 / 理事長 上野 文雄

沿革

当会の源流は、大戦中の 1943(昭和 18)年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。それまで民間企業に依存していた鉄道関係の新聞・雑誌・書籍の刊行が紙の統制のため困難となったという事情が背景にありました。同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行が始まり、各種の雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949(昭和 24)年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらの雑誌はいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987(昭和 62)年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011(平成 23)年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類を電子複製し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を全冊収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ <http://transport.or.jp> の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道 150 年史』編纂事業

わが国の鉄道は 2022 年 10 月に創業 150 年を迎えます。『日本鉄道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂の好機ですが、現在は鉄道省も日本国有鉄道も存在しないので、編纂の主体や、旧国鉄時代の資料発掘など、困難な課題もあります。

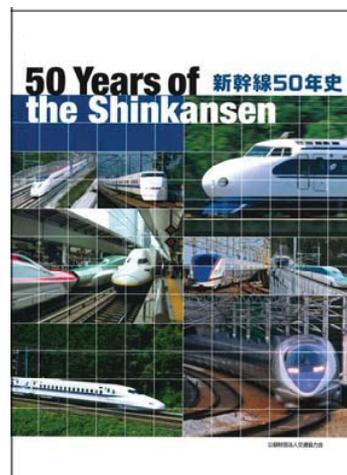
当会は 2012 年に鉄道史資料調査センターを設置し、新しい鉄道史編纂に備えて調査・研究活動を薦め、2015 年 11 月からは当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させて審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史を編纂することに決定し、東京大学名誉教授・原朗先生を委員長とする鉄道百五十年史編集委員会が本年 4 月から発足し、当会が事務局となりました。

『新幹線 50 年史』『SHINKANSEN—The Half Century』の刊行

2014 年に東海道新幹線開業 50 年を迎えたことを記念して、2015 年 3 月『新幹線 50 年史』を刊行しました。国土交通省・JR 各社・日本交通協会・日本鉄道技術協会などの全面協力を得て、各組織の現役の専門家のほか、旧国鉄 OB が執筆し、東海道・山陽・東北・九州、北陸、北海道の各新幹線についての記述を網羅しています。

また、『50 年史』の英語要約版である『SHINKANSEN—The Half Century』も昨年 7 月に刊行し、多くの読者よりご好評をいただいております。

車両や輸送の話題だけでなく、安全対策、災害対策、騒音振動の防止、軌道・架線・車両の保守なども取り上げ、豊富な写真・図表を掲載している新幹線史の決定版です。日本語版が 9000 円、英語版が 5000 円(税込)です。まだ若干の残部がありますから、お買い求めの上、ご愛用いただければ幸いです。



団体名 神奈川新聞社 「横浜市電 1156 号保存会 (神奈川新聞社)」	〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部・齊藤大起(さいとう・ひろき) 携帯電話:090(9015)3707 メール:hi-saito@kanagawa-shimbun.jp 神奈川新聞ウェブサイト「カナロコ」→「CULTURE」→「鉄道」
---	---

【団体の趣旨】

横浜市港南・磯子区の久良岐(くらぎ)公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を、修復・維持するとともに、2012 年 4 月から一般公開イベントを開催しています。1156 号は横浜市電 1150 号型の最後の現存車であり、1972 年に全廃された横浜市電の保存車両の中でも、貴重な存在です。「街に市電が走っていたころ」を伝える貴重な遺産と位置づけ、横浜市や地元企業、市民の皆さんと協力しながら、後世に伝えるべく活動しています。

【保存の経緯】

2010 年末、神奈川新聞の記者が 1156 号の「解体」の知らせを聞き、横浜市に修復を申し出たことがきっかけです。その後、同公園近くの塗装業「サクラ」が地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、2011 年 11 月、1156 号の所有者である横浜市環境創造局、株式会社サクラ、神奈川新聞社の 3 者が、市電保存に関する「覚書」を締結。神奈川新聞社は、紙面を通じた広報や、修復に際しての時代考証、資料・部品の調達などを担当し、サクラは、板金やガラス加工、電気などの業者とともに大規模な工事を担当しました。修復は 2012 年 1 月から 4 月にかけて実施し、内外の修復と再塗装に加え、ヘッドライトや室内灯の点灯も可能となりました。また 2014 年 2 月には横浜市が展示場の大改修を実施し、架線や電停標識を設置。道路から発掘されたレールを埋め込み、市電線路の“延伸”も実現しました。

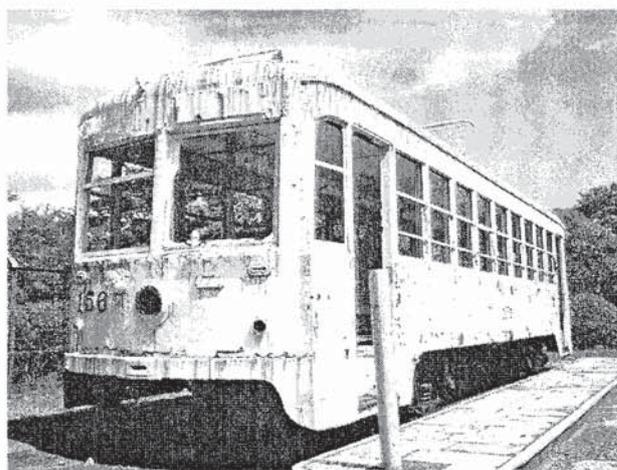
【現在の活動】

1 カ月に 1 回程度、車内公開イベントを開催しています。並行して清掃と修繕も行います。また、かつて市電に勤めていた方々への聞き取りや、神奈川新聞社などが所蔵する現役時代の市電の写真の保存活用も進めています。

【横浜市電とは】

1904(明治 37)年に開業した路面電車。最盛期には総延長 51.79 キロの路線を運行、年間 1 億 2 千万人を輸送したが、道路渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響で、1966(昭和 41)年から順次廃止され、1972(昭和 47)年 3 月 31 日に全廃。現存車両は、横浜市磯子区の「市電保存館」の 7 両のほか、横浜市内に 4 両(野毛山動物園、久良岐公園、県警交通安全センター、市立中田小学校)が残るのみ。

(写真左:2015 年 8 月、右:2011 年 9 月)



団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：水澤 喜代志
-----	-------------------	---

◆**新津鉄道資料館概要**

昭和58年、旧新津市が新津市鉄道資料館をオープンしました。平成10年4月、旧国鉄から鉄道職員研修所「新津鉄道学園」を買い取り、改修し、2代目新津鉄道資料館としてオープンしました。平成17年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」と改名され、平成27年7月にリニューアルオープンしました。200系新幹線、C57形19号機蒸気機関車、485系特急形電車、DD14液体式ディーゼル機関車、今年7月にE4新幹線115系電車も新規展示し静態保存しています。

新潟・新津地域の鉄道資源を地元とともに最大限活用する施設としてまた、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。



200系新幹線・SLC5719

◆**施設概要**

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車、磐越自動車道新津ICより2分
3. 建物 鉄筋2階建、延べ1,764㎡(屋外展示場除く)
5. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約800点
6. 特色 実物車両6両展示、鉄道運転シミュレータ、ミニSL(D51形1/5スケール)など。

◆**平成29年度事業**

- ①7月15日～9月4日 特別展「瀬古龍雄鉄道写真展 I～フィルムカメラで追いかけた60年～」
新潟県における鉄道史研究者で愛好家、瀬古龍雄氏の鉄道写真を紹介しました。毎週日曜日には当館学芸員による解説会を開催しました。
- ②7月15日～18日 サンクスフェア2017 新津鉄道資料館を会場に感謝祭を実施しました。
- ③8月 特別展記念講演会
鉄道史学会会長 大島登志彦氏お迎えし、特別展・瀬古龍雄氏についてお話を頂戴しました。
- ④10月7日 鉄道の街にいつの「にいつまるごと鉄道フェスタ」と「向谷実の1日館長」
総合車両製作所新津事業所・JR新潟支社・新津観光協会・新津商店街・新潟市と連携し「鉄道の街にいつ」地域まるごと鉄分高めイベントを開催しました。同日、鉄道愛好家の向谷さんから「鉄道メロディライブ」「鉄道お宝トーク」を披露いただきました。
- ⑤10月9日 大熊孝夫氏 鉄道講演会「豪雪地の鉄道～雪と戦った1世紀～」
- ⑥まちなか鉄道資料館
新津商店街に新津鉄道資料館収蔵大型資料を設置・展示しています。(C57動輪・踏切警報機 ほか)
- ⑦巡回バス事業 新津駅～にいつ鉄道商店街～新津鉄道資料館
- ⑧鉄道模型走行会
新潟市内の鉄道模型愛好団体と共催し、年5回開催。
- ⑨E4新幹線、115系電車の新規静態保存展示とミニSL・大型鉄道資料の設置
- ⑩その他 鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、車内公開 ほか

◆**新規展示資料**



E4系新幹線と115系電車



ミニSL D51形(1/5スケール)



新幹線・在来特急台車ほか

団体名	<p align="center">上松町 赤沢森林鉄道</p> <p>(経済産業省「近代化産業遺産群」一部認定) (文化庁「日本遺産(Japan Heritage)」認定)</p>	<p>〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038 URL : http://www.avis.ne.jp/~hinoki E-mail : syoukan@town.agematsu.nagano.jp</p>
-----	--	--

**2017年、赤沢森林鉄道は、
次の日程で運行しています。**

○2017年度運行日程

今シーズンは4月29日から11月7日まで
軌道整備日を除いて毎日運行しています。

【運行時間】

土曜・日曜・祝日・夏季及び紅葉シーズン
 9:30から15:30の30分毎に1便運行。
 ※夏季イベント期には9:00便を増発
 ※上記以外の平日は10:00から15:00
 までの1時間毎に1便運行。



(赤沢森林鉄道の運行状況)

【乗車料金】

通常時：大人(中学生以上) 800円 小人(4才から小学生) 500円
 夏季イベント期：大人(中学生以上) 1,000円 小人(4才から小学生) 700円 ※イベント参加料込み

【運行区間】

森林鉄道記念館前から丸山渡停車場 往復約2.2km 約25分

赤沢森林鉄道は今年で30歳！！

昭和50年(1975年)5月、全国最後の森林鉄道「木曾森林鉄道(王滝森林鉄道)」が廃止となり、大正5年から半世紀以上に渡り木曾谷で活躍し、住民の生活にも密着していた「林鉄」が姿を消すこととなりました。

その後、昭和62年(1987年)7月に、かつて「木曾森林鉄道」が使用していた軌道を活かし『赤沢森林鉄道』が観光用の「林鉄」として赤沢自然休養林内に誕生しました。

それから30年「林鉄」は今も多くのお客様に愛され赤沢自然休養林内で活躍しています。



AFT-01



C4型DL



理髪車



ボールドウィン

赤沢自然休養林内には現在運行中の車両「AFT-01・AFT-02」の他にも「ボールドウィン蒸気機関車」や「C4型」「F4型」等のディーゼル機関車、「特製C型展望客車(貴賓車)」「理髪車」「モーターカー」等、実際に木曾森林鉄道で活躍していた車両や森林鉄道に関する貴重な資料が『森林鉄道記念館』に展示してあります。赤沢自然休養林へお越しの際には林鉄への乗車とあわせてこれらの貴重な資料もぜひご見学ください。

伊豆修善寺 虹の郷

〒410-2416
 静岡県伊豆市修善寺4279-3
 (一財)伊豆市振興公社
 TEL0558-72-7222
 FAX0558-72-7133
 E-mail nijinosato2@vcs.wbs.ne.jp
 URL <http://www.nijinosato.com/>



虹の郷ロムニー鉄道は一周2.4kmの周回線路にロムニー駅とネルソン駅を配置。
 園内移動遊覧鉄道としての営業をおこなっております。

乗車料金

大人 (中学生以上)	1200円	大人 (中学生以上)	400円
小人 (4歳~小学生)	400円	小人 (4歳~小学生)	200円

ロムニー鉄道の特徴

イギリス製蒸気機関車2両とディーゼル機関車2両の計4両を、日替わりで運行しています。

2編成営業時には蒸気機関車とディーゼル機関車がすれ違うタイミングがありまして、虹の郷ロムニー鉄道の見どころとなっております。晴れた日には車窓から富士山を望む区間があり、お客様から喜びの声を頂けることもあります。ぜひ、ご来園頂きまして富士山の見えるロムニー鉄道へご乗車ください。



CUMBRIA号

保有車両情報

蒸気機関車	NORTHRN ROCK II	1-C-1	1989年製造
	CUMBRIA	1-C-1	1992年製造
ディーゼル機関車	JOHN SOUTHLAND II	B - B	1988年製造
	CITY OF BIRMINGHAM	0-C-0	1992年製造
展示機関車	ERNEST W TWINING	2-C-1	1949年製造
	C 1 1 (金沢工業大学貸与)	1-C-2	1996年製造

団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 静岡県島田市金谷東2丁目 1112-2 Tel : 0547-45-4111 Fax : 0547-45-4115 URL : Email : hiroyuki-sakashita@oigawa-railway.co.jp 担当者 : 坂下裕之
-----	-----------	--

《本用紙の範囲内で、活動報告をご自由にお書きください》

※本用紙は、当協会 HP (<http://www.rpsj.jp/>) からダウンロードできます。



(本年度6月17日のトーマス出発式の様子)

平成29年度も6月17日から10月9日までトーマス号、ジェームス号の運転をしており連日多くのお客様でにぎわっております。



南アルプスアプトラインについて

2014年9月の大規模土砂崩落のため一部区間不通になっておりましたが、復旧工事が終了し2017年3月11日、実に922日ぶりに千頭～井川駅間の運転が再開されました。

■名古屋市 リニア・鉄道館

〒455-0848
 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
 TEL 050(3772)3910 (JR 東海)
<http://museum.jr-central.co.jp/>

Information

○入館料

大人 1,000 円 (団体 800 円)
 小中高生 500 円 (団体 400 円)
 幼児 (3 歳以上) 200 円 (団体 100 円)
 ※障がい者手帳をお持ちのお客様と付添の方
 大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)
 年末年始 / 12 月 28 日 ~ 1 月 1 日
 (※春・夏・冬休みやGWは無休)

○展示

鉄道車両 39 両 + バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、
 超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、
 シミュレータ、シアターなど



【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】

【2017 年の記事】

- 新幹線試験電車 (300X) の特別公開 (~2/27) 車内見学
- 第 6 回企画展 (3/19~9/25)
 「ドクターイエローの軌跡 The History of Dr. Yellow」歴史と計測技術
- JR 東海 30 周年記念展示 (3/19~9/25)
 懐かしの CM、ポスターなど
- 映像シアター 新コンテンツの公開 (2/1~)
 『名古屋駅の 130 年 ~ 東海道新幹線の開業、そして超電導リニアによる中央新幹線へ ~』
- 運転台特別公開
 0 系 (2/1~2/27, 7/12~9/11)、100 系 (6/10~7/10, 11/8~12/4)
 300 系 (3/1~5/8, 9/13~11/6)、700 系 (~1/30, 5/10~6/9)
 蒸気機関車運転台公開 (C6211/25, 26、C5712/2, 3)、C57 お召装飾 (10/11~23)
 クロ 381 の車内公開 (11/11~12/3 の土休日)
- 車両ガイドツアー
 ドクターイエローの秘密を探ろう (3/18~6/4, 6/10~7/9 の土休日、9/9, 10 は担当者が解説)
 新幹線車両の技術と進化・自由研究 (7/12~9/3)
 超電導リニアの秘密を探ろう (9/13~25)、きっぷを発券してみよう (10/7~11/5 の土休日)
- お仕事紹介
 在来運転士 (4/29, 30)、駅係員 (6/10, 11)、在来線車掌 (6/17, 18, 11/4, 5)
 新幹線運転士 (9/23, 24, 30, 10/1)、新幹線車掌 (6/24, 25, 7/1, 2, 10/28, 29)
 パーサー (10/7, 8, 9)、ドクターイエロー検測員 (8/26, 27)、新幹線車両所社員 (10/21, 22)
- 各種イベント
 みどころガイド (3/1~6/9, 6/10~9/11, 9/13~12/4)
 クイズラリー「鉄道の進化の歴史を探ろう！」(3/4~6/4, 6/10~9/10, 9/16~12/3 の土休日)
 新幹線 300 系前頭オオイ特別開放 (11/3~12/3 の土休日)
 新幹線車両テロップに好きな文字を入れよう (700 系車内 11/11, 12)
- その他
 のぞみ 25 周年記念 300 系「特製しおり」プレゼント (3/15~ 先着 10,000 枚)
 こどもパスポートの発売 (3/15~8/31 小中高生 1,000 円、幼児 400 円)
 鉄道ジオラマに中央新幹線「名古屋駅」が登場 (3/19~)
 東海音楽クラブコンサート (4/16, 10/15)、JR 東海バスの展示 (7/8, 9, 10/28, 29)
 JR 30 周年記念「特製しおり」プレゼント (7/22~ 先着 5,000 枚)



300 系前頭オオイ特別開放

団体名	公益財団法人 博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者 : 近藤 雅隆
-----	--------------------------	--

<蒸気機関車>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。
- 蒸気機関車 12 号と蒸気機関車 9 号が 10 日間くらいの間隔で交互に動態展示を実施。
- ボイラ検査を SL12 号は 9 月 15 日 (木)、SL9 号は 11 月 10 日 (木) に実施。

<ハフ 11・13・14>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。
- (株)ジェイアール西日本テクノスによるハフ 11 改修工事を実施。

<京都市電>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。
- (株)ジェイアール西日本テクノスによる市電 1 号改修工事を実施

<設備工事・点検>

- (株)メイエレックによる電路・電気設備点検を半年に 1 回実施。
- 矢作建設 (株) による軌道点検整備を半年に 1 回実施。

<動態展示物 (蒸気機関車) を利用したイベント実績>

・ 鉄道の日 SL9 号&12 号 プッシュプル&重連運転

開催日 / 10 月 15 日 (土)、16 日 (日)

時間 / 12 : 35 (SL 東京駅発) ~ 15 : 55 (SL 名古屋駅発) の SL 各発車時間

料金 / SL 片道券 大人 500 円、小学生 300 円

内容 / SL9 号 (米製・明治 45 年輸入) と SL12 号 (英製・明治 7 年輸入) が、東京駅 → 名古屋駅をプッシュプル運転、名古屋駅 → 東京駅を重連運転しました。



SL プッシュプル運転



SL 重連運転

団体名

NPO 法人

神岡・町づくりネットワーク レールマウンテンバイク Gattan Go!!

〒506-1147

岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2

旧奥飛騨温泉口駅 内

電話：090-7020-5852

FAX：0578-82-6677

mail：info@rail-mtb.com

■当NPOの概要■ 2006年に廃線になった旧神岡鉄道の鉄道遺構の活用事業「レールマウンテンバイク Gattan Go!! (ガッタンゴー)」を運営しております。(事業発足時は飛騨市観光協会から始まり 2011年に当NPOへ移管) 廃線後のレールの保存活動として始まった取り組みであり、旧神鉄の面影をかぎりなくそのままの形で活用したいというアイデアから生まれたアクティビティです。



■2017年度の取り組み■ イベント「おかえりなさい! おくひだ1号」



4月8日、廃線後10年の間検修庫に眠っていた気動車「おくひだ1号」を、レールマウンテンバイクの出発駅である旧奥飛騨温泉口駅まで自走により移動をさせるイベントを行いました。このイベントのためにエンジンの起動やメンテナンス・外装を行い、移動後は温泉口駅構内に静態保存。そして、旧神岡鉱山前駅の検修線(約120m)と気動車「おくひだ2号」を利用した運転体験の事業を今年度から開始しました。その他、今年で10回目となる素人による枕木交換ワークショップ「枕木交換会」も行いました。



検修線での運転体験 概要

【期日】月に1度、土曜と日曜の2日間

【距離】検修線の片道約120mを3~4往復

【定員】1日5組(HPのフォームにて受付)

【料金】1人/1万円・同伴者1人/2千円

旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館の総称

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番41号(JR長浜駅から徒歩3分)
TEL.0749-63-4091 FAX.0749-64-0396
http://kitabiwako.jp/tetsudou/



名誉館長 米山 淳一(日本鉄道保存協会 事務局長)
館長 北沢 繁和(公益社団法人長浜観光協会 専務理事)
担当者 梅園 いつ子(公益社団法人長浜観光協会)

●旧長浜駅舎

明治15年3月10日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。昭和58年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。

●長浜鉄道文化館

公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として2000年10月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

●北陸線電化記念館

鉄道文化館と同様の趣旨で2003年7月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示しています。



第1回鉄道記念物の旧長浜駅舎



欧州ターミナル駅を模した鉄道文化館



ED70 1号機



柳ヶ瀬隧道に掲げられていた石額

平成28年度 事業実績

年間入館者数 **54,707人** (前年度54,710人)

【企画展】

■真島満秀写真展【2016/3/19～5/8】

■みんなの新快速電車・アイデア記念切符展
【2016/5/28～7/5】



■夏季企画展「鉄道おもちゃ模型展」

【2016/7/8～9/30】



■北陸線直流化10周年記念「長浜と敦賀を結ぶ街道・鉄道物語」【2016/10/22～12/28】



■なつかしの鉄道絵はがき展【2017/1/7～3/31】



平成29年度 事業予定

【企画展】

■鉄道きっぷワンダー展	4月29日～	7月初旬
■おもちゃ鉄道と遊覧鉄道展	7月 5日～	9月30日
■今に生きる歴史的駅舎写真展	10月21日～	12月28日
■鉄道ポスター展	1月10日～	3月末

鉄道スクエアに
GO!



公益社団法人長浜観光協会

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町6 3 2 番地

TEL.0749-65-6521 FAX.0749-64-0396

E-mail. kankou@city.nagahama.shiga.jp http://kitabiwako.jp

特定非営利活動法人
団体名 **貨物鉄道博物館**

事務局(三岐鉄道株式会社内)
〒510-8014 三重県四日市市富田3丁目22-83
TEL:059-364-2141 E-mail:frm_office@sangirail.co.jp
URL:http://frm.kans.jp/

■2016年度の活動経過

2016年度は、新収蔵車タ2000形2001の塗裝修繕完了に伴い、DB101・タム2920・タム6263と共に新展示線へ移設した。



新展示線へ移設中のタ2001
2016年11月3日

■2017年度の活動計画

2017年度は、2016年度に引き続き収蔵車輛の修復を行う。



DB101 塗裝修復中
2017年4月2日

◆2017年度定期開館日

2017年4月2日(日)、5月7日(日)、6月4日(日)、7月2日(日)、8月6日(日)、9月3日(日)、
10月1日(日)、11月5日(日)、12月3日(日)、2018年1月14日(日)、2月4日(日)、3月4日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒530-8341 Tel : 06-6375-2176 URL : http://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : hideaki-iwakura1@westjr.co.jp 担当者：岩倉 英明
-----	-------------	---

西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）が所管する京都鉄道博物館は、4月29日にグランドオープンから1周年を迎えました。

多くのお客様にご来館いただき、誠にありがとうございました。



(グランドオープン1周年記念セレモニー)

開業初年度の昨年は日本鉄道大賞や地元関西の関西元気文化圏賞 大賞など、数々の賞を受賞させていただきました。また、昨年10月14日には、当社管内で2例目となる230形233号蒸気機関車の重要文化財指定を記念し、セレモニーを開催いたしました。



(日本鉄道大賞を受賞)



(関西元気文化圏賞 大賞を受賞)



(233号機関車重文指定記念式典)

開業2年目となる今年度も、楽しいイベントや好奇心をくすぐる企画展示を多数開催し、スタッフ一同、皆様を心よりお待ちしております！



「ナゾトキ街歩きゲーム」
(H29. 9. 28～H30. 1. 8)



企画展「鉄道遺産をたずねて」
(H29. 10. 14～H30. 1. 28)

スタッフ一同、皆様を心よりお待ちしております！



JR西日本では、京都鉄道博物館を中心に、当社エリア内の鉄道遺産を保存・管理し、これらを活用する、鉄道文化活動を推進しています。



(津山まなびの鉄道館：津山市)



(旧大社駅舎：出雲市)



(旧長浜駅舎：長浜市)

団体名	公益財団法人交通文化振興財団	〒 532-0011 大阪市淀川区西中島 4 丁目 2-26 天神第一ビル 1004 号室 Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114 URL : https://tcpf.or.jp/ 担当者：事務局交通資料調査センター
-----	----------------	---

交通資料調査センターを開設しました

当財団では、財団本部である事務局において、交通に関わる歴史資料の収集・調査・保存及び交通関係の文化財の調査等の活動を実施して参りましたが、この度、それらの活動をより体系的に推進するため、平成 29 年 4 月 1 日付けで事務局に交通資料調査センターを開設いたしました。本センターは今後の当財団における自主事業実施の拠点として様々な公益事業を実施してまいる予定ですが、現在の主な活動については下記のとおりとなります。

【交通資料の収集・保存活動】

交通に関わる歴史的・文化的資料類の収集・保存活動を行い、交通資料の未来への継承を進めています。資料の寄贈も受け付けておりますので、ご一報いただけましたら幸いです。



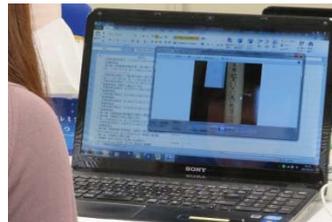
【交通に関わる文化財の調査活動】

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録として後世に伝える活動を進めています。行政機関や各種団体からの委託による調査も実施します。



【所蔵資料のデジタルアーカイブ化】

当財団が所蔵する資料類について整理・登録と同時にデジタル化し、ホームページで公開できるよう準備を進めています。アーカイブシステムの構築費を賄うため、クラウドファンディングによる資金調達を予定しています。



【資料閲覧コーナーの開設】

事務所内に所蔵する書籍等を閲覧頂けるコーナーの開設を準備しています。工事史や年史から雑誌まで目的に合わせてご利用いただけるコーナーとなるよう整備したいと考えています。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

上記の活動をはじめ、交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄付により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

ブログ、Facebook、twitter で情報発信しています。ぜひご覧ください！

団体名



加悦SL広場

宮津海陸運輸(株)

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-42-3186 FAX 0772-42-5300

URL <http://www.kyt-net.jp/kayaslihiroba/>

近況

- 123号蒸気機関車【重文】(加悦鉄道2号機) 外装修繕完了致しました。



平成29年6月に外装関係の修繕と塗装が完了

123号 蒸気機関車(重要文化財)

明治6年6月 Rt.Stephenson製(英国)。関西で最初に開通した大阪-神戸間で活躍し陸蒸気(おかじょうき)の名で親しまれていた。文明開化と共に日本鉄道の黎明期を支えた機関車です。明治45年鉄道院時代に「123号」に番号変更大正15年10月、加悦鉄道の創業に伴い購入。加悦鉄道の2号機となりました。



昭和32年頃 加悦駅構内にて

- 今後の修復について、運転室床の基礎部分を調査・修復について申請予定。
- フハ2客車、DB201ディーゼル機関車、TMC100モーターカー修繕中

TMC100は関西学院大学 鉄道研究会メンバーの皆さんに修繕作業へ参加頂きました。ありがとうございました。



修復作業中の TMCモーターカー



DB201とフハ2客車

- 加悦鉄道保存会 協力のもと、ライブスチーム等の運転ミニイベントを実施
- 平成28年11月SL広場「周年祭」 及び 平成29年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

- 平成29年度 SL広場「周年祭」 平成29年11月 5日(日) 開催予定

※再現列車乗車会ほか、与謝野町近隣団体等との連携イベント「滝・金屋地区 秋の大感謝祭」共催

今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存維持に取り組んで参ります。

特定非営利活動法人

加悦鉄道保存会

〒629-2403

京都府与謝野町加悦433番地 旧加悦鉄道加悦駅舎

TEL/FAX 0772(43)0232

HP <http://kayatetsu.web.fc2.com/>

■2016年10月～2017年8月までの主な活動



「周年祭」「初夏の加悦SLまつり」
『加悦鉄道再現列車』を運転



きものでぶらり♪ちりめん街道
協賛出展



加悦鉄道遺産について
地元与謝野町で講演会を開催

- 2017年9月現在、会員数は45名、年齢は9歳から77歳と幅が広いですが、自分ができる範囲内で楽しみながら活動しています。
- ホームページのご案内
より詳しい作業状況やイベント情報、オリジナル商品の情報が満載です。
<http://kayatetsu.web.fc2.com/>



関西学院大学 鉄道研究会
夏季合宿受入



DB201ディーゼル機関車
整備作業に協力

片上鉄道保存会



【当会の概要】

岡山県美咲町旧吉ヶ原駅を中心に主に活動している団体です。
会員分布は埼玉県～福岡県にあり、毎月の展示運転では1～3両編成を組み、吉ヶ原～黄福柵原駅間にて毎月第一日曜日に展示運転を実施しています。
タブレット閉塞方式、各駅での増解結、臨時増発を行うことで需要に則した運用を行っています。おかげさまで25周年を迎えることができました。



【当会の抱える現在の課題】

- ・組織が大きくなったことによる組織改革
- ・DD13-551水温継電器の故障
- ・ホハフ2003号屋根修復
- ・第一種機械連動装置の復旧(片上方)
- ・電気転轍機の運用と軌道回路
- ・保安システムの運用(特殊発行信号機・列車自動停止装置)
- ・黄福柵原駅末端併用軌道化 20m延伸
- ・吉ヶ原 花見踏切 合成枕木化工事

【本年度概況】

黄福柵原駅開業から3年が経過しており、お客様へのサービスの拡充と地域連携、片上鉄道のソフトウェア保存面への取り組み、これまで延伸を主に行なってきましたが、既存設備の保守、設備強化に重点を置いた活動を行ないました。
他、線路保守、電路、信号設備の常設化作業を実施しています。

【本年達成したこと】

- ・レトロリレーバスからの20列車接続運転・最終便に接続した臨時列車を接続運転
- ・亘り線への電気転轍機仮設置
- ・本線/副本線分岐器トング部へのフロントロッド新設
- ・枕木更新工事60本
- ・ドラマ撮影 ロケ用貨物列車運転 ↑写真

【今後の課題】

新規入会者数減少に伴い、活動参加を呼びかけ
制御弁検査ルート変更調整
組織力を高め、より魅力的な保存活動インフラを整えていくことが課題です。



半年間、津山-吉ヶ原間を無料運行
「急行レトロリレー」号 学生車掌が乗務
関東・関西方面から始発 20 列車接続
産官学地域運動事業への協力



電気転轍機設置による亘線進路保障

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場ふるさと創生課内
TEL0858-82-2231FAX0858-82-0134
e-mail:furusato@town.wakasa.tottori.jp

2017年度の取り組み

蒸気機関車(C12-167)やディーゼル機関車(DD16-7)の運転体験、トロッコ列車(元長野電鉄無蓋車ト6)の乗車体験、旧国鉄12系客車(ホ12-9、スロ712-3、スロ712-6)を団体客の食事処、休憩場所として提供、また、ピンクSLなどの各種イベントに取り組み、若桜駅周辺は多くの観光客で賑わっています。若桜駅を元気にする会では、若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力などにより、若桜駅と沿線地域の振興に取り組んでいます。

【SL・DL運転体験】

場 所:若桜駅構内 SL走行線

内 容:実務講習(運転取扱及び車両の構造を図面、写真で講習)

指導講習(主任運転士による見本運転 1往復)

体験運転(教官がついての実車運転 2往復)

料 金:10,000円～

開催日:SL 4・6・8月の第3土曜日・10月の第4土曜日

DL 5・7・9・11月の第3土曜日

その他:事前のお申し込みが必要です。詳しくは若桜鉄道(株)にお問い合わせください。

【SL走行日】

場 所:若桜駅構内

料 金:入構料300円、トロッコ乗車体験200円

開催日:4月～11月の第2・4日曜日、5月のゴールデンウィーク、お盆



SL (C12-167) 及び転車台



DL・12系客車

今後の取り組み

若桜駅構内の美化清掃活動、駅周辺で開催される各種事業への協力など沿線地域の活性化に積極的に取り組むとともに、観光列車の運行実現に向け、関係機関との連携を強化し、調査・研究・要望活動を継続して行います。

また、若桜鉄道開業30周年記念イベントへの参加、協力を行います。

団体名 NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 〒680-0022

鳥取県鳥取市西町1-106

TEL: 0857-26-1151 FAX: 0857-22-4103

E-mail: wako106@theia.ocn.ne.jp

組織の目的

歴史遺産は、心の支えです。生活を豊かに楽しくします。市民文化財ネットワーク鳥取は、鳥取の歴史遺産を見直し、調査し、修復・保全・技術伝承を目指し、かつ観光資源を活用しながら鳥取らしさを創造する団体です。2004年4月にNPO法人となりました。会員数80名

今年度の主な活動

- ・若桜町つくよねに、整備した燻蒸茅の生産システムがほぼ軌道にのり、県内の文化財修理に使っていただいている。今後さらに、若桜鉄道沿線の茅葺屋根の復活を目指している。
- ・景観まちづくりセミナーにおいて若桜鉄道の終着駅「若桜」の若桜宿の伝統的な建造物を中心とした整備計画を提案し、調査と整備が行われた。
- ・江戸初期の中心の仮屋と水路の商家通りを挟んで蔵通りで護られた寺通りと旧武家町という明確なゾーン分離が明治期の火災によって宿議会で決められた都市計画によって再整備され、昭和5年に整備された鉄道と各時代の歴史を感じさせる町並みの整備。
- ・鳥取市内をはじめ若桜鉄道と連携可能な、鉄道資源を発掘し可能性について検討。
鳥取駅の直ぐ脇には明治41年に米子―鳥取間の山陰本線開通時に建てられた駅舎など駅構内施設が移築保存されているが、保護が十分でなく、貴重な歴史遺産が十分に活かされていない。この惨状に目を向け、保存の意義を思い起こし、保存に力を入れるよう働き掛けている。

鉄道記念公園

鳥取駅旧駅舎は全国でも珍しい双頭レールのホーム上家、ならびに使用年代を刻んだ跨線橋脚柱(門柱、照明燈柱に使用)等鉄道の歴史を知る貴重な諸物件が使用されており、これの保存方を多くの市民の方々の強い要望により、これを展示し、末長く後世に伝えるとともに、児童生徒の教育に資することを目的としてこの鳥取鉄道記念物公園を設置した。



双頭レールで造られた明治41年当時鳥取駅舎

団体名	山口線 S L 運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1 山口県庁観光プロジェクト推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 83-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ Email : c571@c571.jp 担当者 : 小嶋 洋一
-----	-----------------	---

《本用紙の範囲内で、活動報告をご自由にお書きください》

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーンに向けたおもてなしの強化

幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーンの開催に併せて、9月2日に S L 全盛期の旧型客車を復刻した客車がデビューし、11月25日には、D51 形蒸気機関車の本線復活運転され、S L 「やまぐち」号の魅力がますます高まります。

この好機を逃すことなく、S L 「やまぐち」号に、より多くのお客様に御乗車いただけるよう、取り組んでいきます。



提供：S L やまぐち地域振興会 吉永 昂弘

◆ S L 「やまぐち」号の概要

〔平成 29 年運転期間〕

平成 28 年 3 月 19 日～12 月 24 日の土日祝日を中心に運行
(84 日間)

〔運転区間〕

新山口駅 (山口県山口市) ⇄ 津和野駅 (島根県津和野町)

※ 1 日 1 往復

〔運転時間〕

新山口駅 : 10 時 50 分発～津和野駅 : 12 時 59 分着

津和野駅 : 15 時 45 分発～新山口駅 : 17 時 30 分着

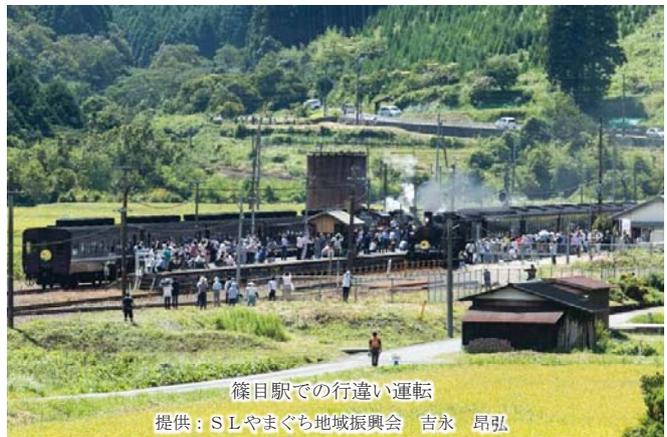
【近況報告】

◆ S L 「やまぐち」号新製客車のデビュー

9 月 2 日の山口 D C のオープニングイベントに合わせて、新製客車がデビューし、新山口駅で出発式が開催されました。

山口線沿線には、地域づくりの団体の皆さんが、手製の手旗で、新製客車のデビューを祝いました。

これに合わせて、C 5 7 1 号機が牽引する新製客車と C 5 6 1 6 0 号機が牽引する旧型レトロ客車の行違い運転も実施され、歴史的な瞬間カメラにおさめようと沿線は、多くの鉄道ファンで賑いました。



篠目駅での行違い運転

提供：S L やまぐち地域振興会 吉永 昂弘

◆ S L ギャラリーの開催

S L ギャラリーを山口市と津和野町でそれぞれ開催し、11月25日に本線復活運転を予定している D 5 1 (デゴイチ) の大規模修繕の模様を収めた映像作品を上映しています。併せて、会場に D 5 1 (正面) の実寸大のタペストリーを展示しています。

その他 S L に関わる貴重なコレクションを多数展示しました。

なお、山口会場では、新旧客車のシートを再現し、S L の旅を疑似体験できます。



新製客車の再現シート

愛媛県西条市

鉄道歴史パーク in SAIJO

〒793-0030

愛媛県西条市大町 798-1

TEL0897-47-3855 FAX0897-53-6200

鉄道歴史パーク in SAIJO



四国鉄道文化館へようこそ

愛媛県西条市の JR 伊予西条駅隣にある四国鉄道文化館には、合計 6 両の貴重な実物車両を展示しています。北館には「0 系新幹線電車」と「DF50 形ディーゼル機関車 1 号機」を展示。ともに運転席を常時開放し、運転士気分が味わえます。

北館に並んで展示する 0 系新幹線と DF50 1

C57 44 号機ほか展示車両が充実

南館には、C57 形蒸気機関車、キハ 65 形急行用気動車、DE10 型ディーゼル機関車、フリーゲージトレインの 4 車両を展示。また、四国の沿線風景の 1 日を再現した演出走行が人気の鉄道模型レイアウトは見たえじゅうぶんです。このほか、鉄道標識や信号機、車両の動輪の実物など、鉄道文化を楽しく学べる展示内容となっています。



C57 44



キハ 65 34



DE10 1



南館外観とフリーゲージトレイン

第 4 代国鉄総裁・十河信二氏ゆかりのまち「西条市」

「新幹線の生みの親」とも言われる十河信二氏は、西条市長も務めた「名誉市民」でもあります。市ではパーク内に「十河信二記念館」を整備し、「夢の超特急」東海道新幹線の開通に尽力した氏の功績と人間的な魅力を紹介しています。



十河信二氏胸像

10 周年記念イベントを開催！<11/23. 25. 26 鉄道フェスタ 2017>

四国鉄道文化館は、2017 年 11 月 26 日でオープン 10 周年を迎えます。たのしい記念イベントを開催しています。特に、11/23・25・26 の 3 日間は「鉄道フェスタ」として、JR 四国の協力のもと、「鉄道ホビートレイン」の特別展示をはじめ、様々な体験メニューを企画しています。



昨年の鉄道フェスタ「おさんぼなんよ」特別展示



今年は「鉄道ホビートレイン」

ぜひ、四国鉄道文化館「てつぶん」へお越しください！！



てつぶん 6 姉弟 (きょうだい)

【鉄道歴史パーク in SAIJO】

JR 伊予西条駅隣の「鉄道歴史パーク in SAIJO」。パーク内には「四国鉄道文化館 北館」「四国鉄道文化館 南館」「十河信二記念館」「観光交流センター」の 4 つの施設があります。

○開館時間：9 時～18 時（最終入館 17：30） ○休日：水曜日（観光交流センターは無休）

○入館料：（四国鉄道文化館 両館共通）大人 300 円、小中学生 100 円、幼児無料、各種割引有

馬路村 やなせ 魚梁瀬森林鉄道

〒781-6202

高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所

TEL : 0887-43-2211 FAX : 0887-43-2208

E-mail : yanase@vill.umaji.kochi.jp

URL : <http://www.umajimura.jp/>

古くから高知県は林業で栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正6年には本線終点の石仙まで軌道が伸びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長250kmといわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和32年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。33年から軌道の撤去がはじまり、38年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成21年に橋梁や隧道など18箇所（馬路村内では4箇所）が国の重要文化財の指定を受けました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも9基（馬路村内では2基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸5か町村）で国の重要文化財の指定を受けるのは、我が国初のことです。

また、平成29年4月には、森林鉄道から日本一のゆずロードへ「ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化」をストーリーに文化庁の日本遺産認定も受けることができました。

このような貴重な森林鉄道は、現在、観光資源として活用され、馬路村に多くの観光客を集めています。

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時

[8月は毎日運行]

◎料金／乗車大人400円など

◎お問い合わせ／馬路温泉

TEL:0887-44-2026



●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道。指導を受けながら運転することができる「運転体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 10時00分～12時、13時～15時30分

[8月は土曜も運行]

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所

TEL:0887-43-2211



団体名	九州旅客鉄道株式会社	〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21 Tel : 092-474-2541 Fax : 092-474-3898 URL : http://www.jrkyushu.co.jp/
-----	------------	--

人吉機関車庫 建設当時の姿に復原！

人吉機関車庫が建設当時の姿に復原され、平成 29 年 3 月 18 日、お披露目式が行われました。人吉機関車庫は、肥薩線が全線開通した約 2 年後の明治 44 年 11 月に、現在の石造部分が建設され、第二次大戦後に輸送力向上の一環として、東西の鉄骨造り部分が増築されたものです。国内では珍しい“現役”の石造機関車庫で、現在は S L 人吉の給水作業や灰の清掃作業、その他車両の給油・点検作業や洗浄に使用されており、平成 19 年には、肥薩線の橋梁や駅舎等とともに近代化産業遺産に認定されています。今回、東西の増築部分を撤去することで、建設当初の姿に復元。人吉鉄道ミュージアム MOZOKA ステーション 868 からの眺望が良くなり、人吉機関車庫周辺の見学スペースも拡大して人吉機関車庫をより身近に見学することが出来るようになりました。



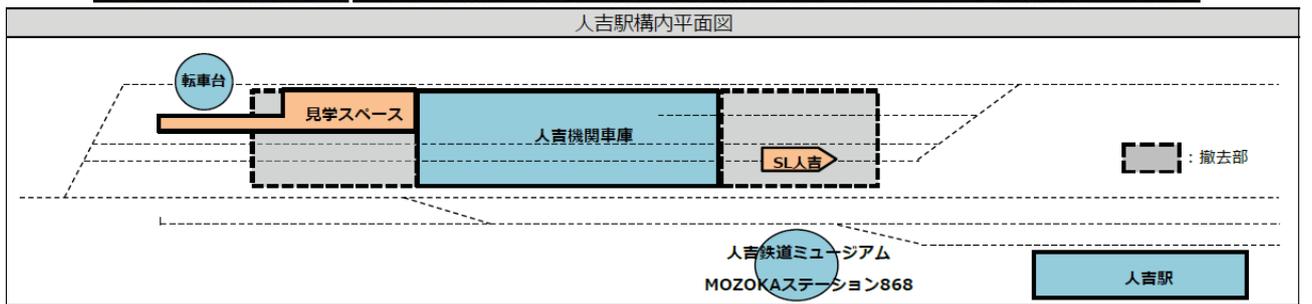
西側の鉄骨トラス造りおよび東側のレール造りを撤去し、明治44年建設当初の姿に復原した。

復原後



復原前

人吉駅構内平面図



北九州線車両保存会

KITAKYUSHU LINE TRAM SOCIETY

お問い合わせ
 〒818-0071
 福岡県筑紫野市二日市西3丁目12-1-2F
 080-6412-1666 代表 手嶋 康人
 E-mail teshi729@yahoo.co.jp
 FacebookID 350000081873979

2017年活動報告

148号 門司港レトロ3月中旬～11月末 毎週日曜公開
 621号 324号 かしい花園毎週土日祝日公開



西日本鉄道北九州線621号（所有）香椎花園内レトロ電車パーク



西日本鉄道北九州線324号（所有）香椎花園内レトロ電車パーク



西日本鉄道北九州線148号（管理）門司港レトロ駐車場



西日本鉄道福岡市内線507号（所有）筑前山家駅構内（JRより借地）

課外活動



京都コンピュータ学院様 京都市電 1801.2603 全塗装



平成筑豊鉄道様 キハ2004を守る会様 キハ2004 全塗装



足尾歴史館 蘇ったガソリン機関車と客車

日本鉄道保存協会

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号
公益財団法人交通協力会気付

電話: 03-6269-9808 FAX: 03-6269-9809

URL: <http://www.rpsj.jp>

Email: rpsj.tetsudo.hozon@gmail.com

表紙・裏表紙写真: 米山淳一